

Daiwa House Group

Corporate Social Responsibility
Report 2008 Digest



共に創る。
共に生きる。

大和ハウスグループ

CSRレポート2008 ダイジェスト版



Daiwa House®
Group

2008 CSRレポート編集方針

冊子とホームページの一体で、 大和ハウスグループのCSR活動についてご報告します。

大和ハウス工業は2000年に初めて「環境報告書」を発行し、2004年からは社会的側面の報告を加えた「環境・社会報告書」を発行。

そして2005年からは、さらに報告内容を充実させた「CSRレポート」を発行しています。

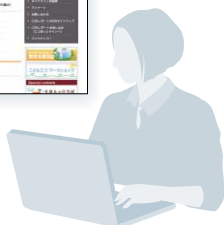
今回は、冊子とホームページのそれぞれの特性を活かして「読みやすさ」と「説明責任の完遂」を目指しつつ
幅広いステークホルダーに対応した開示に努めました。



ホームページ(詳細版)

取り組みの詳しい内容を報告します

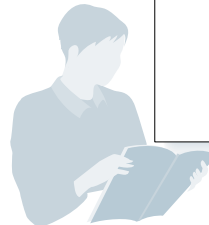
ホームページでは、当社の取り組みに関して
幅広く全容を報告しつつ、
より詳しい情報もご覧頂けるよう
開示情報の量的向上を図りました。



冊子(ダイジェスト版)

ステークホルダーの声を中心に報告します

冊子では、当社の取り組みのうち
特に大切と考えている6つのテーマについて、
ステークホルダーとの対話や写真・図版を
多用して読みやすさに努め、
開示情報の質的向上を図りました。



CSRレポート
webサイトトップ

<http://www.daiwahouse.co.jp/csr/>

本冊子のP45にサイトマップがあります。

想定している読者対象

お客様、株主・投資家、お取引先、従業員、地域社会、行政、NGO・NPOなど幅広いステークホルダー(利害関係者)を対象としています。

報告対象組織

大和ハウス工業を中心に大和ハウスグループ全体(2008年3月31日現在、連結子会社55社および持分法適用関連会社13社)について報告しています。

報告対象期間

2007年度(2007.4.1~2008.3.31)を基本として、必要に応じて2006年度以前・2008年度以降の活動内容も掲載しています。

発行日

2008年7月(次回発行予定:2009年7月)

※本書の一部、あるいは全部について、著者・発行者の書面による承諾を得ずに、複写・複製することは禁じられています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティリポーティングガイドライン第3版」
*本レポートとこれらのガイドラインとの対照表を、ホームページに掲載しています。

将来の見通しに関する注意事項

本報告書には大和ハウスグループの過去から現在までの実績や事実のみならず、経営方針に基づく将来予測・計画などが含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果はその後の経営環境の変化により将来予測や計画と異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまには、以上をご了承いただきますようお願いいたします。

この報告書についてのお問い合わせ先

大和ハウス工業株式会社

CSR推進室 TEL:06-6342-1435

環境部 TEL:06-6342-1346



大和ハウスグループ CSRレポート2008 ダイジェスト版 CONTENTS

- 1 編集方針
- 2 目次
- 3 トップコミットメント 会長から皆さまへ
- 5 大和ハウスグループの概要
- 7 大和ハウスグループのCSR
- 9 トップコミットメント 社長から皆さまへ

特集～私たちが大切と考えていること～

11



省エネルギー
住宅 xevo

お客様との共創共生

「人と環境にやさしい住まい」

15



越谷
レイクタウン

自然環境との共創共生

「自然と調和した街」

17



ハッピー
ハグモデル

お客様との共創共生

「個客思考の商品」

19



施工品質の
向上

お取引先との共創共生

「信頼される施工品質」

23



教育支援活動

次世代との共創共生

「未来の豊かな環境・社会」

27



従業員の
メッセージ

従業員との共創共生

「家族・自分に誇りを持てる会社」

- 31 コーポレート・ガバナンス
- 33 CSR自己評価指標 (CSRマネジメント)
- 35 環境行動計画2005の実績と自己評価
- 37 エンドレス グリーン プログラム 2010
- 39 ステークホルダーとの対話
- 41 第三者意見
- 43 業績ハイライト・CSRのあゆみ
- 45 サイトマップ (詳細版)

大和ハウス工業株式会社コーポレートデータ (2008年7月1日現在)

創 業 1955年4月5日

資 本 金 110,120,483,981円

本 社 〒530-8241 大阪市北区梅田三丁目3番5号

支社・支店 全国87箇所

工 場 全国11箇所

研 究 所 総合技術研究所 (奈良市)

研修センター 大阪・東京・奈良

トップコミットメント

会長から皆さまへ

社会から必要とされ信頼される
企業であり続けます。



Commitment

創業者の精神を受け継いでいく。

創業者・石橋信夫は、その生涯を終えるまで「夢」を求めて走り続けました。私たちはその精神を受け継ぎ、大きな「夢」を抱き、未来へ向かって一步一步前進していかなければなりません。

昨年度のCSRレポートでは、「将来を見据えた経営戦略のもと、今後も成長し続けるための核となる事業を開発・育成し、次代へ引き継ぎたい」と考えを述べましたが、現在取り組んでいる新規事業のうち、代表的なものを3つほどご紹介します。

まずは「ロボットスーツ」の開発プロジェクトへの参画です。世界でも類のないほどの高齢社会に突入しようとしているわが国にとって、高齢者の介護支援、自立支援は、社会的にも重要な課題となっています。特に介護施設の現場では要介護の方を抱え上げる必要がありますが、ロボットスーツを着用することで介護者の負担を大きく軽減することができます。この技術をさらに広く普及させていくことにより、将来は住宅内における介護負担の軽減にもつながると考えています。

また、「リチウムイオン電池」の開発事業にも取り組んでいます。これは環境・エネルギー問題に対応する事業であり、風力や太陽光など自然の力を利用してリチウムイオン電池に電力貯蔵することができれば、CO₂の排出を抑えることができ、環境保全に大いに役立ちます。

さらに、世界的な人口増加の影響により、日本国内では食糧不足問題の発生も懸念されています。過去、当社は「建築の工業化」で住宅の不足を補ってきましたが、これからの食糧問題に対応していくため私は、「農業の工業化」が必要と考え、事業化に向けた取り組みをスタートさせています。

創業者・石橋信夫は「先の先を読み」と言い続けてきました。「夢」を持ち続け、世の中から必要とされる事業に取り組んでいくことで、この精神を受け継ぎ、大和ハウスグループを一層成長させたいと考えています。

Commitment

100年企業に向け、「人財」育成に努める。

大和ハウスグループは2005年に50周年を迎えましたが、創業から50年続く企業は40%、100年となるとたった3%しか存続できないと言われています。このように、私たちが業容の拡大を果たした上で、100周年を迎えるためには、より一層人財（人材）育成に注力する必要があり、その取り組みを始めています。

まず、将来の経営者を育てるため、2008年5月に「大和ハウス塾」を発足させました。大和ハウスだけでなく、グループ会社からも人財を募集し、現在各種教育プログラムを実施しています。

人財育成面における課題の一つ目はチャレンジ精神のある女性社員の発掘と、女性が十分に能力を発揮できる職場環境づくりです。また、二つ目は、次代を担う若手社員（特に30代）の育成です。女性社員や若手社員の個性を引き出し、能力を高める企業風土を築いていくことは、大和ハウスグループの成長に必要不可欠なものです。

「企業は人なり」と言われるように、優秀な人財が揃えば企業の可能性に広がり生まれます。また、社会から必要とされる100年企業になるために、「約束を守る、嘘をつかない、努力する」といった当たり前のことを当たり前に実践する、すなわち「凡事徹底」を日常業務における行動の基礎として、人財を育成していきたいと思います。

Commitment

大和ハウスグループらしいCSRに取り組む。

「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、たくさんの人や街、そしてさまざまに営まれている暮らしに役立ち貢献していくこそが、大和ハウスグループのCSRです。

生活の基本要素である「衣食住」の観点で考えると、日本では「衣食」は十二分に満たされていますが、「住」に関しては量的確保はできていても、質的な充足という側面ではまだまだ十分ではありません。また日本の住宅は建ててから10年が経つと建物の不動産価値が「ゼロ」と評価されてしまうケースが多々あります。大和ハウスグループとしては、このような社会的な課題を少しでも改善していくため、経年劣化するのではなく、年を経るごとに質を向上させ、長く安心して暮らせる住まいを提供していく考えです。そして街並みの成熟とともに家そのものの価値を高めていくため、アフターメンテナンスや住まい方に関する情報提供など、お客様へのサポートを多面的に行っていきます。

社会から必要とされ信頼される企業であり続けるため、グループ全社・全役職員が一体となって大和ハウスグループらしいCSR活動を推進していきます。

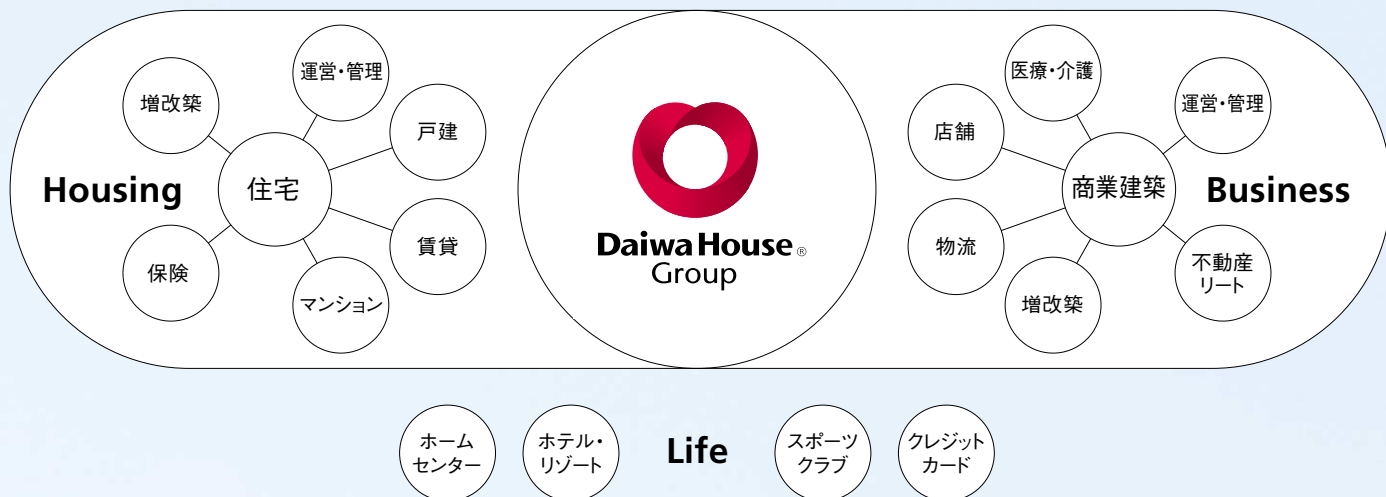


代表取締役会長 樋口武男

大和ハウスグループの概要

大和ハウスグループは、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、すべての人が心豊かに生きる暮らしと社会の実現を目指し、「ハウジング」「ビジネス」「ライフ」の3つの分野をベースに、「住宅」「商業建築」「リゾート・スポーツ施設」「ホームセンター」「その他」の5事業を展開しています。

人・街・暮らしの価値共創グループ



Housing

住宅事業

(住宅・賃貸住宅・マンション)

- ・住宅等の企画・請負・販売
大和ハウス工業(株)
- ・賃貸住宅、マンション管理
大和リビング(株)
(株)ダイワサービス
ダイワマンズリー(株)
日本住宅流通(株)
- ・地盤調査、地盤改良
大和ランテック西日本(株)
大和ランテック東日本(株)
- ・増改築工事請負
ダイワハウス・リニュー(株)
- ・不動産の仲介・斡旋
日本住宅流通(株)
- ・住宅部材の製造
(株)シンクロラー
ダイワラクダ工業(株)
- ・不動産の仲介・売買
大和リース(株)
大和エステート(株)
- ・賃貸住宅の経営(海外)
上海国際房産有限公司
北京東苑公寓有限公司

Business

商業建築事業

(流通店舗・建築)

- ・商業施設の企画・開発・施工
大和ハウス工業(株)
大和リース(株)
- ・仮設建物のリース・販売
大和リース(株)
- ・産業用建物の建築請負
大和ハウス工業(株)
小田急建設(株)
- ・商業施設の企画、管理、運営
ロック開発(株)
大和リース(株)
大和情報サービス(株)
ダイワロイヤル(株)

Life

リゾート・ スポーツ施設事業

- ・別荘地の企画・販売・管理
大和ハウス工業(株)
- ・ホテル、ゴルフ場等の経営管理
大和リゾート(株)
ダイワロイヤルゴルフ(株)
- ・スポーツクラブの経営
日本体育施設運営(株)

ホームセンター事業

- ・ホームセンターの経営
ロイヤルホームセンター(株)

その他の 事業

国内

大和物流(株)【物流事業】
(株)ダイワサービス【人材派遣業】
(株)伸和エージェンシー【広告代理店事業】
(株)メディアテック【情報通信サービス業】
大和エネルギー(株)【省エネ推進・管理事業】
大和ハウスインシュアランス(株)【損害保険代理店業】
大和ハウス・リート・マネジメント(株)【投資運用業】
(株)寿恵会【高齢者居住施設の運営管理】
日本住宅ローン(株)【住宅融資】
(株)大阪マルビル【ホテル事業】
大和ハウスフィナンシャル(株)【クレジットカード事業】
エネサーブ(株)【電力設備の保守点検等】
ダイワロイヤル(株)【ビジネスホテル・運営管理】

海外

大和事務処理中心有限公司【事務処理の業務受託】
天津九河国際村有限公司【賃貸住宅の経営】
大和房屋(蘇州)房地產開發有限公司
【分譲マンション開発・販売】
大連槐城別墅有限公司【賃貸住宅の経営】
大連民航大廈有限公司【大連ロイヤルホテルの運営】
大連付家庄国際村有限公司【賃貸住宅の経営】
大連大和中盛房地產有限公司【分譲マンション開発・販売】

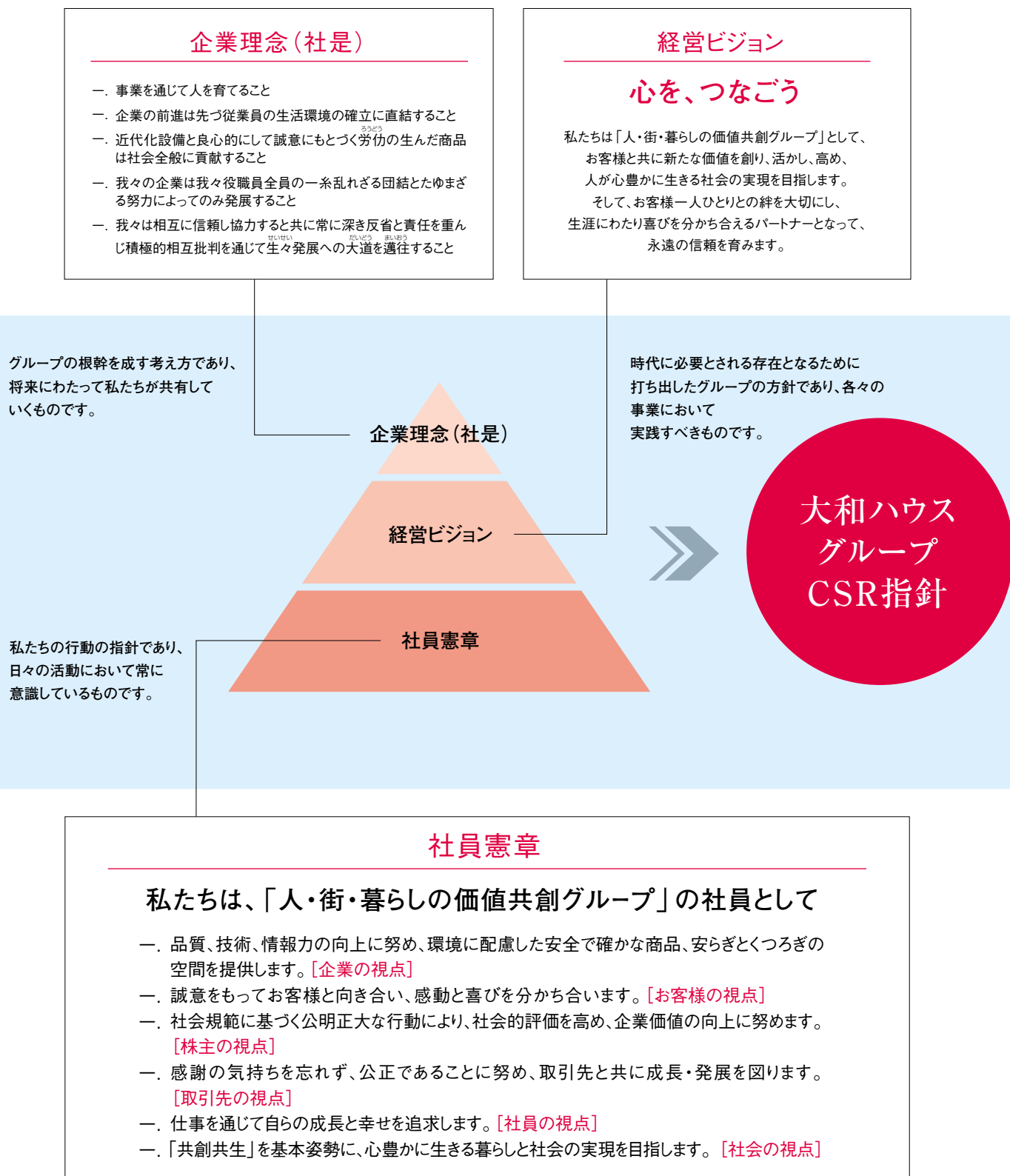


・大和ハウスグループ

<http://www.daiwahouse.com/group/>

大和ハウスグループのCSR

大和ハウスグループの理念体系は、企業理念（社是）、経営ビジョン、社員憲章の3つで構成されています。その理念体系を元にCSR指針を策定しています。





Daiwa House®
Group

私たち大和ハウスグループは、
事業を通じて社会と共にあること、
そして商品やサービスを通じ、暮らす人と共にあること。

この「共創共生」の姿勢を持ち続け、
誠実に社会と向き合うことが大切であると考えています。

大和ハウスグループCSR指針

社会性・環境性・経済性の3つの側面から、
バランスのとれた事業活動を意識するとともに、
ステークホルダー（利害関係者）と誠実に向き合い、
企業市民として社会の要請に応え続ける。

1. 独自技術・ノウハウにより事業を通じて
社会に貢献する。
2. ステークホルダー（利害関係者）との関わりや
対話を通じて当社に対する要請を理解し、
企業市民としてそれに応えるよう努める。
3. 企業倫理・コンプライアンスの確立に努める。

大和ハウスグループシンボル
エンドレスハート

「お客さまとの絆、永遠の信頼」「大和ハウスグループの連
帯感と絆」を意味します。また、「メビウスの輪」を想起させ
るとともに、この正円は原点である“和”を表現しています。

共に創る。共に生きる。

地球環境

お客様

お取引先

株主・
投資家

従業員

地域社会

NPO・NGO

行政



トップコミットメント
社長から皆さまへ

ステークホルダーの皆さまと
エンドレスな関係を築いていきます。

Commitment

地球環境の保全に全力で取り組む。

京都議定書の第一約束期間が始まり、今夏に開催された洞爺湖サミットにおいても気候変動問題が主要議題の一つとなりました。さらに、2009年には改正省エネ法の一部施行など住宅や建築物への規制強化が一層進むと予想されます。

こうした状況の中、大和ハウスグループでは2006年に今までの住宅工法を一新、「外張り断熱」によりCO₂の排出量を大幅に削減できる戸建住宅「xevo（ジーヴォ）」を発売するなど、環境問題に積極的に取り組んでいます。今後、このような省エネルギー住宅のより一層の普及拡大を図っていくために、環境性能をわかりやすくお客様に伝えることに加え、環境に配慮した暮らし方についてもご提案していきたいと考えています。また、環境と共生した街づくりへの取り組みも進めています。例えば「レイクタウン美環（みわ）の杜（越谷市）」は、街に吹く風を住戸内にうまく取り入れる工夫など、自然の力を最大限活かした街づくりです。今後はこうした先導的な取り組みを小規模な街区開発にまで根付かせていく必要があると考えています。

こうした取り組みを継続させていくには、全従業員がビジョンを共有しなければなりません。そこで、本年度を初年度とする「中期経営計画Challenge2010」では、地球温暖化防止を重要テーマとし「CO₂ダブルスコア※の達成」を基本方針の一つに掲げました。この目標達成に向け、何をすべきかを役職員一人ひとりが常に考え、行動に移すことで、着実に地球環境の保全に貢献していきます。

※「CO₂ダブルスコア」：「商品・サービスによるCO₂削減量」を「事業活動プロセスにおけるCO₂排出量」の2倍以上とすること。

Commitment

「もっといい会社」を実現する。

2005年の創業50周年を機に、ブランド価値向上とグループ会社の結束力の強化を目的に、新シンボルマーク「エンドレスハート」を導入しました。「エンドレスハート」の求心力もあり、大和ハウスグループの一員としての自覚・プライドが従業員一人ひとりの心の中に根付き始めたと感じています。また、三識（意識・認識・知識）を踏まえた法令遵守やリスク管理、さらには環境保全・地域貢献などを自主的に考え実行に移すことの大切さが企業風土として徐々に形成されつつあることを感じています。

私は以前より「もっといい会社にしよう!」と機会あるごとに呼びかけています。「いい会社」とは持続的な成長を続けると

ともに、社会的責任もしっかり果たすことができる会社です。従業員が自分のためだけでなく、家族や社会、さまざまなステークホルダーのことを考え行動することで、会社はさらに良い方向に向かって進んでいけると確信しています。新入社員を含めたグループ全役職員が意欲をもって経営に参加することで、社会全体から高い評価をいただける「もっといい会社」を実現していきたいと考えています。

Commitment

「共創共生」を行動で示す。

大和ハウスグループはお客様をはじめとするステークホルダーはもちろん、何より地域の皆様から愛される企業を目指しています。そのため、私たちは商品・サービス・事業活動を通じて関わりを持つすべての人々と信頼関係を築き、大切なパートナーとして、末永くお付き合いをしていくことに努力しています。例えば、私は「個客思考」という言葉を好んで使用していますが、これはお客様一人ひとり（個客）を大切にするという気持ちを、より強く従業員に持ってほしいからです。商品・サービスを通じて、お客様とさらなる信頼関係を育んでいくためには、全従業員がお客様に対してもう一歩踏み込んだアプローチを行うことが重要です。これは、私たちが標榜する「人・街・暮らしの価値共創グループ」に込めた「共創共生」の志を着実に実行していくこととつながっているのです。

今回のCSRレポートの特集では、「共創共生」の考え方に基づき、当社が特に大切に考えている6つのテーマをご紹介します。

1. お客様との共創共生「人と環境にやさしい住まい」
2. 自然環境との共創共生「自然と調和した街」
3. お客様との共創共生「個客思考の商品」
4. お取引先との共創共生「信頼される施工品質」
5. 次世代との共創共生「未来の豊かな環境・社会」
6. 従業員との共創共生「家族・自分に誇りを持てる会社」

お客様との関わり方や街づくりに対する意識、次代を担うこどもたちへの想いなど、本特集を通じて、大和ハウスグループに対するご理解をより一層深めていただければ幸いです。



代表取締役社長 村上健治

1人とお客様との共創共生 環境にやさしい住まい

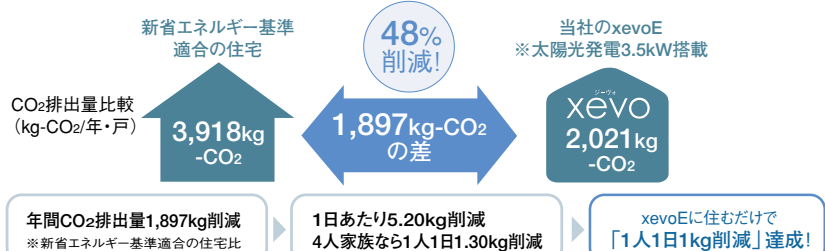
お客様との共創共生

家庭から排出されるCO₂が問題視される中、大和ハウス工業は、25年ぶりに工法を一新し、高度な環境性能を備えた「xevo(ジエヴォ)」を開発。本特集では、オール電化と太陽光発電を搭載した「xevoE」をご購入されたK様のご自宅を営業担当の鈴木がご訪問し、「xevoEの省エネ効果」「ご要望に対する大和ハウス工業の対応」「これからの付き合い」についてお話を伺いました。

右から
xevoEにお住まいのお客様
K様

営業担当
北九州支店
八幡住宅営業所 店長
鈴木 隆夫

xevoEなら、住んでいるだけで「1人1日1kg」CO₂が削減できます。



【試算条件】当社モデルプラン(134.16m²)における試算値(計算ソフト:SMASH)。建設地:東京(IV地域)／ご家族:4名／空調:電気エアコン
新省エネ基準適合の住宅は、調理・給湯ともガスを使用。xevoEは、調理はIHクッキングヒーター、給湯はエコキュートを使用。

省エネ効果の実体験が、 環境意識の向上に

大和ハウス工業・鈴木（以下、鈴木）

2008年3月にご入居されてから3ヶ月が経ちました。省エネの効果などはいかがでしょう。

お客様・K様（以下、K様） 快適な気候が続き、エアコンなどにはまだ頼っていない時期だからかもしれませんが、光熱費がずいぶん下がったと実感しています。特に妻が驚いているようで、主婦の感覚からすると、節約の効果は一目瞭然のようです。

鈴木 「xevo」は、断熱性や気密性に優れており、意識せずとも冷暖房の使用を抑えることができます。特に、夏や冬はより一層省エネ効果を感じとっていただけたと思います。今、環境省では「1人1日1kgCO₂削減」を呼びかけています。K様のお住まいは太陽光発電を備えた「xevoE」ですから、普段の暮らし方のままで実践できるようになっています。

K様 CO₂削減と言われても具体的なイ



メージを掴むことができませんでした。電気代の節約といった立場で捉えたと、非常に身近な問題として認識できるようになりましたよ。

鈴木 住宅メーカーとして

当社は、高い環境性能を備えた住宅を提供することで、日本全体のCO₂排出量を削減していく、とい



うことを重要なテーマに据えています。一方、お客様への提案活動では、「光熱費」という実生活に基づいた側面からお話をすることで、エコな暮らし方の普及に努めています。

K様 鈴木さんは、「洗濯・食洗機は夜間電力を利用すると省エネになる」「エコキュートのスイッチは1日おきに留守番モードに切り替えて」といったようなアドバイスもしてくれます。それらをきっちり守っているからこそ、結果がついてきているのですね。

鈴木 私の家も、オール電化を採用した当社の一戸建てなので、パンフレットには載っていない、我が家の知恵をK様にご提案しています。

K様 この家に住み始めてから、エコに対する意識が高まってきたように感じます。孫への環境教育も含め、家族みんなでCO₂削減に何かしらの貢献ができればと考えています。



K様ご家族

家族構成は、K様ご夫婦とお嬢様ご家族の計6人。二世帯同居にあたり、以前に住んでいたマンションが手狭になり、新居をお探しでした。しかし、希望の物件が見つからず、一度は家の購入をあきらめかけていたそうです。ちょうどその頃、当社のホームページから資料を取り寄せられたことをきっかけに私（鈴木）と出会い、K様ご一家の「理想の二世帯住宅づくり」が始まりました。

外張り断熱の家「xevo」で、断熱性が向上



「太陽光発電」でかしこく省エネ

K様のお宅では、家族みんなの目が届きやすいキッチンのそばにモニターを設置しているので、リアルタイムで電力の使用状況を確認でき、節電意識や環境意識の向上に一役買っています。



カラー電力モニター

発電量、消費電力量、売買電力量など、わが家の今の電気の状態を、イラスト入りの画面でわかりやすく表示。

特集：省エネルギー住宅 xevo お客様との共創共生「人と環境にやさしい住まい」



「私が家を建てた時は、まだxevoが発売されてなかったんですよ。」(鈴木)



「鈴木さんはお子さんが産まれたんですよね。お祝いしなきゃ。」(K様)



シミュレーションとメールで、 ご要望に対応

鈴木 「xevo」は、お客様のニーズやライフスタイルに合わせて、環境にやさしい暮らし方をご提案できます。つまり、最適なプランをお客様と共に創っていくことができるのです。

K様 私は、省エネなどの新しいモノを好むほうなのですが、太陽光発電となると初期費用が結構かかるので、正直少し悩みました。しかし、鈴木さんが年間の光熱費やメンテナンス費用、さらには排出されるCO₂までも算出し、メリットを詳しく説明してくれたので購入することを決めました。

鈴木 その時に使用したのが「ecoナビゲーター」というシミュレーションソフトです。このソフトでは、理想の間取りや希望の設備といったハード面だけでなく、「昼間には何人が家に居るのか」「夏場の入浴はシャワーで済ませることが多い」といった、

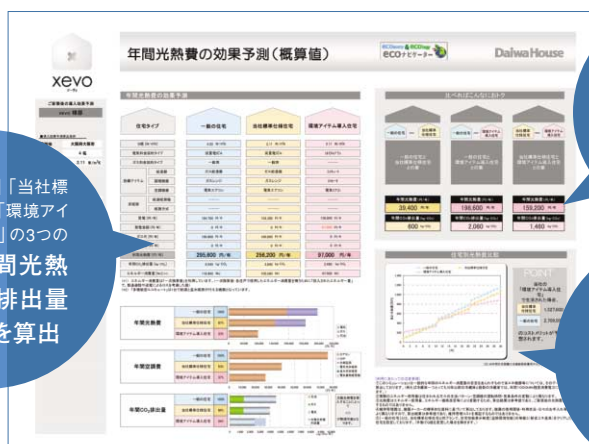
家族皆様の生活スタイルも入力することが可能で、将来の完成イメージをより詳しく膨らませることができます。

K様 確かに、このシミュレーションは明快でした。実際に、光熱費削減という効果も今の暮らしの中で実証されています。

このほか、鈴木さんは、私たちの要望すべてに応えてくれました。例えば、「土地は角地がいい」「今まで住んでいたマンションを売却したい」「二世帯同居だが、間取りは二世帯にたくない」…など。鈴木さんの対応には、本当に満足しています。



ご計画の間取りや家族のライフスタイルを設定し、
光熱費をシミュレーション。



「一般の住宅」「当社標準仕様住宅」「環境アイテム導入住宅」の3つのケースで、年間光熱費やCO₂排出量の予測値を算出

3つのケースを比較し
年間でどの住宅
がどれだけお
得かを試算

設備機器のトータル
でのコスト予測
をグラフ化

- イニシャルコスト
- ランニングコスト
- メンテナンスコスト

鈴木 さまざまな要望を取り入れながら、短期間で新築住宅をご提供できたのは、電子メールのおかげもあります。一旦メールでご希望・ご質問を受け取り、当社の設計や内装の担当者と相談した上で、ご返答していました。結果、正確でスピーディーな対応に結びついたと思っています。

K様 休日に相談したくてもお互いのスケジュールが合わないこともありました。その点、メールだと気軽に質問することができますから。

鈴木 メールも含め、お客様にとっていつでも相談できるパートナーであり続けることが、私の目標ですね。

これからも続く、「アフターサービス」と「ご縁」

K様 実際に住み始めてから、少し気になる箇所があったので知っている施工会社に聞こうかと思ったのですが、結局、鈴木さんに問い合わせました。

鈴木 「xevo」では定期的に点検、メンテナンス（有償）を受けていただくと最長40年※となる保証システムをご用意しています。しかし、そういった企業としての関わりだけではなく、個人的なお付き合いをしたいですね。まだこれは実現されていないのですが、住まいづくりを計画されている方をここへお連れし、K様から体験を直接お話していただけないか、というようなワガママを以前に言ったことがあります。

K様 一度会って気が合う人というのは何かの「ご縁」でつながっているのではないのでしょうか。ですから、鈴木さんのお願いに対しても、私にできることはさせてもらうつもりです。

鈴木 本当にありがとうございます、今後とも末永いお付き合いをお願いします。



北九州支店
八幡住宅営業所
店長
鈴木 隆夫

今後の想い

私は、大和ハウス工業に入社して12年目です。K様との出会いのように、お客様のご要望にお応えできるようになった自分を誇りに思っています。そして、一生に一度の買い物とされる住宅を通じて、ご家族の皆さまから頼りにされることは他の仕事では味わえないと感じています。特に今回のケースは、以前に住まわれていたマンションの売却や土地のご購入、二世帯同居などいろんな要望がありましたが、自分の力を一杯に発揮できたという自信があります。

今後も、さまざまなお客様のご要望にお応えできる提案力を養い、K様のように永いお付き合いができるお客様をどんどん増やしていきたいと考えています。



当社の居住段階における
CO₂排出量の削減
～省エネルギー住宅の開発・普及～
への取り組みが評価されました。

「平成19年度
地球温暖化防止活動
環境大臣表彰」
受賞

自然と調和した街

自然環境との共創共生

街区全体で
CO₂削減20%以上を
目指します。▶▶▶



※街開き予想図(2008年3月末時点)／図面に基に描き起こしたもので、実際とは多少異なる場合があります。(提供:UR都市機構)

2008年3月に街開きを迎えた越谷レイクタウン。そのなかで、大和ハウス工業は、キャナル(運河)をはさんで向き合う「戸建住宅街区」と「マンション街区」の2つの街区を一体開発しました。風を効果的に取り入れながら、自然との調和を図る「戸建住宅街区」について街並設計室の井野がご紹介します。

「風」をテーマに、快適で
環境にやさしい街と住まいを。



技術本部
設計施工推進部
街並設計室
主任

井野 善久

四季の移ろいに育まれた日本の民家には、風と共に暮らすさまざまな工夫が施されています。例えば、夏には「越屋根」※1を活用し、室内の暖まった空気を効率よく排出したり、冬には北風から家を守るため、高垣を設けて風の方向を変えたり。冬の風が強い越谷では、古い街並みの中に、今でも高垣を見ることができます。自然環境をうまくコントロールしながら暮らす先人の知恵を現代の住宅に応用できないか、また、越谷の気候風土に合った住まいをつくるためにはどのような設計を取り入れるべきかを考えた結果、私たちはパッシブデザイン※2、特に「風」に焦点を当てた設計コンセプトにたどり着きました。

私たちが、快適で環境にやさしい街と住まいをカタチにするために最も注力したのが、「風況・温熱環境シミュレーション」です。このシミュレーションは東京大学生産技術研究所・大岡研究室の協力によるもので、戸建住宅街区全体はもちろん、住まい一棟一棟の建物周辺の風の流れを季節ごとに把握することができます。そして、そこから得られたデータに基づき、建物の配置や植栽の高さ、住戸プラン…等々を計画。さらに住戸

1.
街の設計を
▶▶▶

街区の風の流れシミュレーション

風の特徴を利用した建物配置や植栽計画で街に効果的な風の流れを創出。



※1「越屋根」:屋根の上に棟をまたいで一段高く設けた小屋根。採光・換気・排煙などを行うことができる。
※2「パッシブデザイン」:その土地が持つ自然の力を住宅の配棟や植栽計画などによりうまく引き出し、快適な街・住まいを創出すること。反意語の「アクティブデザイン」はエアコンなどの機械で温熱環境を整え、過ごしやすいこと。

マンション
街区は

太陽熱システムを共有し、
効率のよい省エネを計画。



太陽熱（ソーラーパネル）を利用した住棟セントラルヒーティングシステムを導入し、給湯・床暖房のための温水を供給しています。

戸建住宅街区、マンション街区とも
環境省の「街区まるごとCO₂
20%削減事業」に認定されました。

戸建住宅
街区は

パッシブデザインで
機械設備に頼らず
省エネを。



冬の北風
から守るために街区
周辺に設けられた高垣。

一棟ごとの風の流れシミュレーションの結果は、快適に過ごすヒントとなるようわかりやすく冊子にまとめ、お客様にお渡ししています。



内の風況シミュレーションを行い、室内の風の流れを確認することで、街の中と各住戸内に流れる理想的な風のデザインを試みました。また、風をデザインすることによってエアコンなどの助けを極力減らす生活、つまり、住む方が意識をしなくてもCO₂の排出量削減につながる工夫をしました。

より良いコミュニティを 一緒になって形成するために。

戸建住宅街区は7つのコミュニティゾーンで構成されており、それぞれが特徴ある街並みを創出しています。各ゾーンではシンボルツリーをはじめ植栽を統一したり、各住戸の表札の色をテーマに合わせて設定するなど、さまざまな仕掛けを取り入れています。これは、「ここは一つのグループなんだ」と感覚的に捉えていただき、コミュニティ意識を高めていただくことを意図したものです。

さらに、戸建住宅の街づくりでは珍しい「管理組合」を設け、公園や高垣などの植栽の維持管理等を行っていきます。設立にあたっては大和ハウスがサポートを行う予定で、ゆくゆくはワークショップなども開催し、よりよいコミュニティづくりのお手伝いができればと考えています。

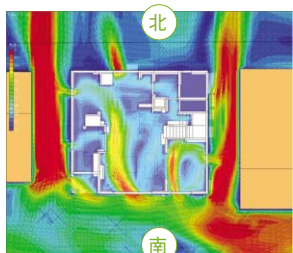
今後の想い

大規模団地の開発は元々あった自然に影響を及ぼす可能性があるため、無秩序に街づくりを進めるのではなく、そこに生息していたものと同じ品種の木を植えるなど地域独自の風土を守り育てる設計に取り組んでいきたいと考えています。また、家を建ててからのサービスや増改築、さらには将来の建て替えなど、お客様と世代を超えたお付き合いがしやすい街づくりを目指します。そのためにも、自然との調和はもちろん、住まわれる方々からいつまでも愛される質の高い街や住まいをつくり、事業を通じて社会に貢献していきたいと考えています。

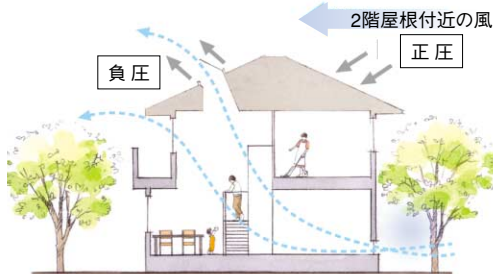
2. 住まいの設計 に活用

住まいの風の流れシミュレーション

窓の位置や間取りで室内に理想的な風の流れを創出。



2階屋根付近の風



地窓から取り込んだ冷気が吹抜や階段室を通り天窓から抜ける。



・環境と共生した住まいと街づくり
・豊かな生態系に配慮した街づくり
・防犯配慮の街づくり

特集：ハッピーハグモデル

3 個客思考の商品

※1

お客様との共創共生

家族みんなで触れ合って暮らすというコンセプトは理想的ですね。

こどもの成長に合わせて、いろんな暮らし方ができそうです。

神戸市在住 O様、お子様2才



700名の
ママ・パパの声から
うまれました!

2008年5月13日、「たまひよ幸せ倍増プロジェクト※2」とのコラボレーションにより誕生した『ハッピーハグモデル(2008年5月オープン)』に、子育て家族の代表として5組のお客様をお招きしました。総合技術研究所の高瀬が『ハッピーハグモデル』をご案内し、こどもをもつ親としてのご意見をお伺いしました。



ママとパパの視点を
大切にしたモデルハウス
「ハッピーハグモデル」。



総合技術研究所
技術開発センター
生活ソフト研究室

高瀬 愉理

「たまひよ幸せ倍増プロジェクト」とのコラボレーションが実現したことで、ママとパパの視点に立った、よりきめ細かな提案活動が行えるようになりました。これまでの大和ハウス工業は、家族構成やこどもの年齢、住まいの機能・設備などにこだわっていたケースが多く、お子様がいる方々の「想い」にまで十分に耳を傾けていなかったのでは、と改めて感じています。「ハッピーハグモデル」では、そのような反省点も踏まえながら、子育て世代の「声」を積極的に取り入れたさまざまなモデルプランを展示しています。

Q こどもの成長で重視することは?

A 相手の立場などを理解し、人を思いやることができるような心を持って欲しい

94.3%

Q 家族のコミュニケーションで大切にしたいことは?

A きちんと挨拶できること

94.1%

食事中の会話

84.3%

出典：ベネッセコーポレーション&ダイワハウス共同調査
07年8月「子育てをサポートする住まい」についての調査

※1「個客思考」：大和ハウス工業独自の造語。個々のお客様一人ひとりを大切に、お客様の立場に立ち、プロにしか出来ないご提案をすることによって本当に喜んで頂けるサービスをご提供しようという考え。

※2「たまひよ幸せ倍増プロジェクト」：妊娠、出産、育児を応援する雑誌『たまごクラブ』『ひよこクラブ』『こっこクラブ』発の赤ちゃん・子どもとママ、パパの幸せを応援する活動。マタニティストラブの認知拡大、新商品・サービス開発、企業とのコラボレーション等を行う。





親子で使える
ファミリーライブラリーが
いいですね。

今は小物などが床にある状態なので、目隠しも兼ねたキッチン横のスペースはこれから親子でいろいろ使えそう。

箕面市在住
S様、お子様0才



ハッピーハグモデルのモデルハウスで説明を受け体感した後、感想を話合っていました。



リアルなサイズの
モデルハウスなので
現実味を感じました。

独自のプランが組み込まれていて、我が家に合う機能を選べそうです。

神戸市在住
N様、お子様3才



ママ・パパから
見た視点の違いを
話し合えそうです。

間仕切りが欲しいという主人と欲しくない私。暮らし方の面から住まいを見つめるきっかけになりそう。

四条畷市在住 A様、お子様6才



ビッグダイニングは会話しやすくいいと実感しました。どこにいても目線が合うよう計算されているんですね。

生駒市在住 N様、お子様3才



親子が幸せに暮らす 住まいをご提案するために。

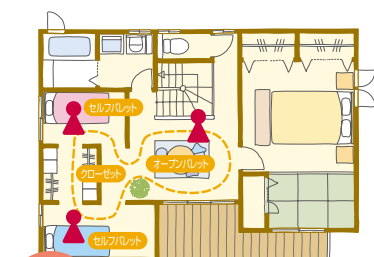
「ハッピーハグモデル」の最大の目的は、見学に来られたお客様に現実的なサイズの商品や完成イメージを体感していただき、住まいづくり計画のヒントを得ていただくこと。家族がずっと幸せであるための住まいのあり方を共に考え、カタチにしていくことにあります。ですから、当社として「こんな家はどうですか」というスタンスではなく、それぞれのお客様の「暮らし方」を踏まえたいと提案をしていきたいと考えています。今日、5組のお客様とお話しをして、こどもを持つ若い世代の「子育て感」が多様化していることを再認識しました。私たちがお客様一人ひとりにとっての大切なパートナーであり続けるためには、企業側の意見だけではなく、ママ・パパの意見も指標にしていかなければと強く感じました。

今後の想い

女性の社会進出が一般的になり、晩婚化の進行や初産の年齢が高くなるなど、母親の世代はさまざまです。

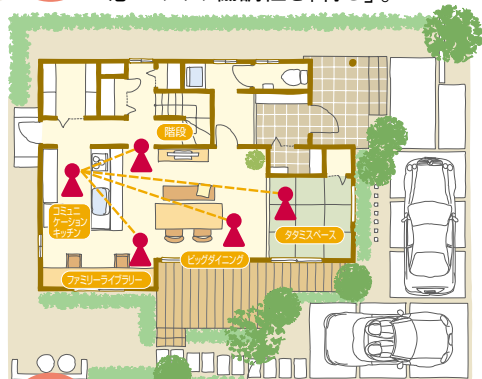
ひと口に「子育て層」といっても「暮らし方」は多様化しています。大和ハウス工業の研究所としては「子育て層」や「団塊世代」のように世代でお客様を一括りに捉えた生活提案だけではなく、ライフスタイルや価値観をベースにした提案活動を展開していくことが重要だと認識しています。

幅広い生活者の視点やニーズを吸い上げ、研究を重ねることで、より細やかな「暮らし方提案」に取り組んでいきたいと考えています。



2F

みんなの共有スペースとこどもたちのプライベート空間をゆるやかにつなげて思いやりや協調性を「育む」。



1F

キッチンから全体が見渡せるワンルーム空間で目線の合った「コミュニケーション」を。

「ハッピーハグモデル」が「第2回
キッズデザイン賞（建築・空間
デザイン部門）」を受賞しました。



KIDS
DESIGN
AWARD
2008



・ハッピーハグモデル

<http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/about/keyword/happyhug/>

特集:システム建築※1における
施工品質の向上

信頼される 施工品質

お取引先との共創共生

2008年4月、当社システム建築※1「ダイワフレスト」によるコンビニエンスストア建築現場で施工の合理化を目指したプロジェクトを実施。現場管理を担当する建築工事課の杉山と施工に携わったお取引先(施工会社)が、「施工品質」と「コミュニケーション」をテーマに話し合いました。

左から

土工(基礎を施工)

現場監督(工程の管理)

とびこ
工場 鷹工(現場での建方)

とびこ
鷹工(現場での建方)

荻野建設
増屋氏

大和ハウス工業
四日市支店 建築工事課
杉山 担当

牧南工業
鈴木氏

貴藤興業
藤瀬氏

物件名:ローソン四日市芝田店(四日市支店) 商品名:ダイワフレスト 延床面積:172.48m²

スピーディーで高品質な 施工を実現するために。

大和ハウス工業・杉山（以下、杉山） 今回の現場のテーマは建方※2の「工期短縮」でしたが、それによる品質面はいかがでしたか。

牧南工業・鈴木氏（以下、鈴木氏） 通常の場合、工期は3～4日ですよね。目標とした1日とはいきませんでした。2日で完了させたことには大きな意義があると感じています。部材をシンプルにしたり、手順を合理化することで効率良く作業を行うことができ、ミスやロスを減らすことができました。これは、工期短縮だけでなく、製作品質、施工品質の向上につながるんですね。

貴藤興業・藤瀬氏（以下、藤瀬氏） システム建築自体の設計改善や、工場製作の段階からすべてのプロセスを見直すことで、更に施工品質は向上すると思います。例えば、今は現場での作業でしかボルトを取り付けられない接合部もありますが、設計変更することで、工場であらかじめ取りつけておくようにするとか。そのような改善の積み重ねによって、1日で完了させることも可能になってくるのではないのでしょうか。

荻野建設・増屋氏（以下、増屋氏） 現場は1つ1つ違い、現場状況から適切な



判断をすることはとても大切です。今回の現場は敷地が広く、作業の段取りがスムーズでした。しかし、狭小物件でもこのプロジェクトを成功させるには、更に工夫が必要だと思います。

杉山 このプロジェクトを成功させ、標準化させるためには、クライアント様・施工会社様、そして大和ハウス工業の3者それぞれにメリットがなければならぬと考えています。クライアント様にとっては、施設を早く利用できるというメリットがありますが、皆さまにとってはどうでしょうか。

鈴木氏 私たち施工会社にとっても大きなメリットがあります。良いものを早く施工できる会社は重宝されますし、工期が短くなれば次の現場に入ることができます。効率良く作業を行えるように仕組みづくりをしてもらうことは、品質の向上だけでなく、現場の安全性も向上しますね。効率良く作業を行うということは、無駄な作業や不安全作業をなくすということでもありますから。

杉山 私も同感です。品質の高い建物をつくるのは当然のこと。施工会社様が安心して働ける現場環境を提供するのも私たち大和ハウス工業が全力で取り組んでいくべき仕事だと認識しています。



※2「建方（たてかた）」：通常、鉄骨の柱・梁を建てることを指しますが、ダイワフレストでは、基礎、外壁パネル（柱・建具を内蔵）、梁、屋根パネル（下地鉄骨を内蔵）すべてを建てることをいいます。



※1 システム建築とは

工場で鉄骨を製作、外壁等をセットし、パネル化したものを現場で組み立てるまでをシステム化したものです。

システム建築商品の一つである「ダイワフレスト」は、柱と外壁面材を一体化するのが特徴で、低コスト・短工期・無柱大空間というメリットがあり、主にロードサイド店舗で採用されています。

現場での施工の様子



・土台基礎設置



・外壁パネル建方



・屋根パネル建方

・システム建築における改善活動の仕組み

システム建築は、同じ工法で何棟も建築するため、一品生産中心の建設業のなか、一つの現場で出た課題を次の現場に活かすことができます。

そこで、当社では、施工会社からの改善提案を本社部門に集め、必要に応じて関連部門で協議、対応策を現場へフィードバックしています。また、年一回、改善事例表彰を実施するなど、継続的な改善が行われる仕組みを構築しています。



・設計品質と施工品質



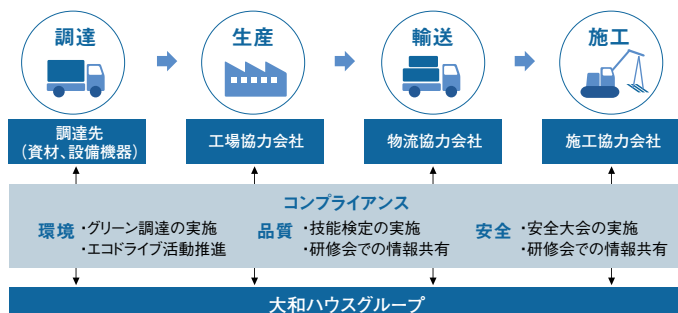
特集:システム建築における施工品質の向上
お取引先との共創共生「信頼される施工品質」



課題を話し合う
各会の協議会
随時開催

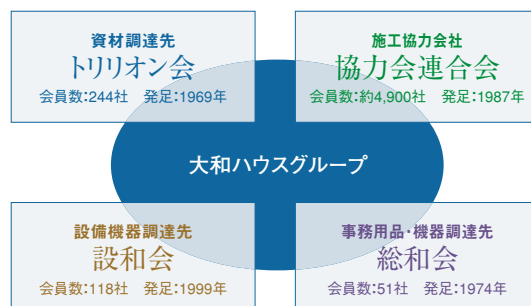
サプライチェーン・マネジメント

資材・設備調達から、施工まで幅広いサプライヤー・協力会社の皆さまと良い関係を築き、お客様に品質の高い商品をお届けする体制を構築しています。



お取引先との協働体制

4つのサプライチェーンの会とともに、
環境・品質・安全活動を推進しています。



・サプライチェーン・マネジメント ・お取引先と共に

コミュニケーションをさらに深めて

杉山 高い施工品質を確保するためには、施工会社様との円滑なコミュニケーションが必要不可欠だと思っています。荻野建設の増屋さんは「システム建築」の経験が豊富ですから、いつも一緒に「どうしたら良い品質のものをつくり上げられるか」を話し合い、改善を重ねています。実際に今回も基礎工事に関して改善した内容は大成功でした。

増屋氏 私たち基礎施工会社は一番最初に現場に入ります。これは私たちの仕事次第では、後から来られる施工会社さんに負担をかけてしまう、ということです。ですから現場監督とはよく話し合いをしますし、働きやすい環境をつくってほしいといったお願いもします。監督と会話を重ねることで、自然と仕事がしやすい現場になっていくのです。

藤瀬氏 大和ハウスさんは、私たちの意見によく耳を傾けてくれますし、次の現場ではそれがきちんと活かされていますね。

杉山 皆さまの声を吸い上げ、次の現場に反映していくことが私たちの大切な役割であり、責任でもあります。皆さまのご意見は本社の担当者に伝え、全国の現場へ改善事例を水平展開することで、より一層の施工品質の向上につなげています。

藤瀬氏 問題を次に持ち越さない、ということについては私も同意見です。前の現場と同じことを繰り返しては進歩がない。大和ハウス工業さんはこちらの話を理解した上で、細かな点までも解決してくれる。それについては大いに満足しています。

杉山 現場で解決しきれない課題につ

いては、本社の開発担当者を含め検討しています。検討した結果、対応できないことがあっても、その理由を明らかにするようにしています。

鈴木氏 最近は、本社の担当の方と現場でお会いする機会が増えましたね。私たちの意見や要望を直接聞いてもらえるのはとても良いことだと思います。また、私は中部工場所属の協力会社という立場上、工場の出荷エリアの現場に行くことが多く、たくさんの現場監督さんとお話する機会があります。そこでお聞きしたご意見やご要望は、工場に持ち帰り、会議で報告しています。

杉山 私としては、施工会社様の「声」に対して、いかに早く対応していくかが、今後の課題だと感じています。現場を通じて、皆さまとの信頼関係を育んでいくためには、今まで以上に積極的なコミュニケーションが大切だと思います。

今後の想い

今回の現場では、3～4日だった^{たて}建^{かた}方所要日数を2日にまで短縮することができました。目標とした1日とはいきませんでした。改善すべき点を見出すなど、これから活かせる結果を得ることができたと思っています。施工会社様、現場監督、工場、本社、すべての人が互いに協力し合って良い仕事をする中で、スピーディーで高品質な施工が実現可能となるのです。本社部門にはこの現場を通して得た結果を改善・改良につなげ、施工資料の整備、施工教育などを行い、全社的に水平展開してもらいたいですね。社会に誇れる施工品質によって、お客様に喜ばれる建物をつくっていきたくと考えています。

施工品質とは

私たち大和ハウスグループが考える『信頼される施工品質』とは、「Q・C・D・S・E・M」、つまり「品質」「コスト」「工程」「安全」「環境」「モラル」の6項目をバランスよく満たした状態です。



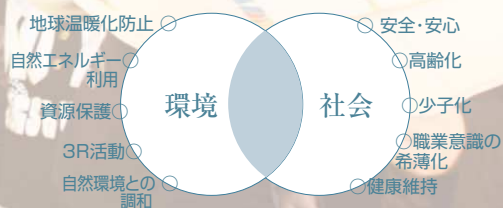
特集：教育支援活動

未来の豊かな環境・社会

次世代との共創共生

第1回 こどもエコ・ワークショップ
発電実験の様子

大和ハウスグループは、人が心豊かに生きる社会の実現を目指して、次代を担うこどもたちと一緒に、最も身近な「住まい」をキーワードとして、未来の豊かな環境・社会について共に考え、活動しています。



第3回 こどもエコ・ワークショップ
箱模型実験の様子

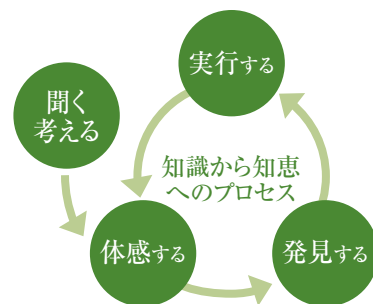
こどもたちの身近な『住まい』から「環境」を考える～こどもエコ・ワークショップ～

大和ハウス工業では、誰にとっても最も身近な『住まい』という環境を題材とし、次代を担うこどもたちに体感を通じて、楽しみながら「考え・感じ・発見する」ワークショップを2005年度から継続して実施しています。

断片的知識から体感・発見を通じて、実行へ

現代のこどもたちは、学校やマスメディアを通じて、ある程度の「環境」に関する知識を持っています。しかし、それらは断片的な知識でしかなく、それを自分たちの身近な生活に結びつけて考え、自発的に実行に移すことは苦手です。

そこで、当社の「こどもエコ・ワークショップ」では、まずお話やクイズを「聞く・考える」ことで、断片的でしかなかった知識を自分の身近なものとなつてイメージしてもらいます。その後、ゲームや実験などの「体感」を通して、自ら「発見」し、家に帰ってからの日常生活における「実行」を促し、知恵として活かしていただけるよう工夫しています。



第1回(2005年度開催)

テーマ:「動物から学ぼう、
すまいづくりの知恵!」

内容:資源保護、自然の大切さについての話
ワークショップ(発電実験)



第2回(2006年度開催)

テーマ:「地球のセーターって、なあに?」

内容:地球温暖化についての話
ワークショップ(エコ・すごろくゲーム)
エコ宣言



第3回(2007年度開催)

テーマ:「家も地球も気持ちいい、
暖かさ&涼しさのヒミツを探ろう!」

内容:世界の様々な家についての話
ワークショップ(体感実験)エコ宣言



第3回こどもエコ・ワークショップを実施

2007年度は、「自然を活かした快適な住まい方」をテーマに、すだれや霧吹き等の身近な道具を使った実験を行い、「暖かさ」や「涼しさ」を体感。その後、自宅に帰って自分がチャレンジすることを一人ずつ宣言してもらいました。

参加者のご意見

W様

実際に、「見・聞・触」体験ができて、こどもも楽しく学習できたと思います。また、今回のイベントで学んだこと(自然を生かした住まい方の工夫)を今後に生かして生活してみようと思いました。大人にもこどもにも、大変ためになるイベントなので、東京・大阪の2会場だけでなく、会場数を増やして行って欲しいと思います。



講師のご意見

一級建築士「伊藤牧子研究室」代表
「こどものためのオープンハウス」事務局代表

伊藤 牧子氏

太陽の光や熱、風などの自然を活かした暮らしは、環境に優しいだけでなく、私たち住まい手にとっても心地よく楽しいものです。そういったことを多くの人にわかりやすく伝え、環境に配慮した暮らしを自ら創りだすことができる仲間を増やしていくことが、地球環境を守ることにつながると考えています。今回は、そんな活動と一緒に取り組めたことをとても嬉しく思っています。今後も、建築を担う企業として、サステナブルな建物を提供するだけでなく、環境に配慮した住まい方を普及させるための教育活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

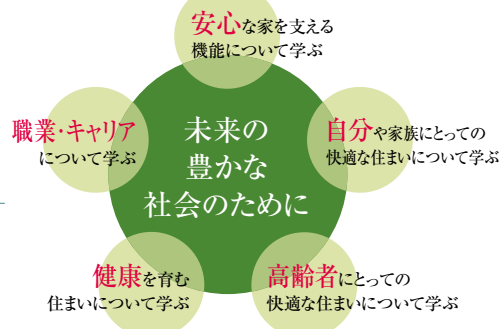


・こどもエコ・ワークショップ
<http://www.daiwahouse.co.jp/eco/event/>
・環境コミュニケーション

こどもエコ・ワークショップが「第2回キッズデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)」を受賞しました。

「社会問題」に関する学び

「住教育」は、現代のさまざまな課題（健康、高齢社会、省エネルギーなど）から歴史や文化、ライフスタイルの変遷など、いろいろな学習テーマがあります。それらの課題に対し、「専門家」の立場から伝えていきます。



埼玉県戸田市立喜沢中学校
テーマ：「住環境・住まいの
ユニバーサルデザイン」



ユニバーサル
デザインという
言葉をはじめて
知りました。

大阪市立東中学校
テーマ：「一番大切な人に捧げる、
世界でたった一つの家をつくらう！」



良いアイデア
が生まれても
形にするのが
難しかった。

豊島区立朋有小学校
テーマ：「快適な住まいづくり
～風通しを考えよう」



エアコンを
使わなくても涼しく
過ごせることを
知りました。

社員が学校を訪問し、「住教育」を実施

環境にやさしい住まい方、長持ちする住まい方などをこどもたちに啓発していくことは住宅メーカーにとっての社会的責任の一つと考えます。

当社では専門知識をもった社員が学校を訪問し、住環境に関する授業を行っています。2007年度は延べ22校に訪問し、「住まいのユニバーサルデザイン」「一番大切な人に捧げる、世界でたった一つの家を作ろう」「快適な住まいづくり～風通しを考えよう」などをテーマに授業を行いました。今後は、より多くの社員が参加できるようマニュアルを作成し、さらにわかりやすい授業ができるようレベルアップを図ります。

学校への訪問
延べ22校
(2007年度)

現職務以外の仕事を体験できるチャンス 出張授業の講師として参加

出張授業に参加した理由は、こどものためになるだけでなく、自分の勉強にもなり仕事の幅が広がると考えたからです。実際に参加して、こどもたちの斬新なアイデアに触れることができ、また仕事への誇りを再認識し、非常にプラスになりました。

多くの社員が参加しやすい環境にするには、職場や上司の理解が不可欠ですので、今後も会社側からのバックアップを期待しています。

柏支店 住宅営業所 阿部 文晴



Column キッズニア東京

当社も出展している「キッズニア東京」とはこどもたちがいろいろな仕事にチャレンジし、楽しみながら社会の仕組みを学べる職業体験テーマパークです。当社のパビリオンでは、お客様のご要望に応じて内装をコーディネートする「インテリアプランナー」の仕事が体験できます。

また2009年に開業を予定している「キッズニア甲子園」にもパビリオンを出展いたします。



クエストエデュケーションプログラム(コーポレートアクセスコース)に参加

当社は2007年度より「教育」をテーマとしたCSR活動の一環として、
(株)教育と探求社が主催する「クエストエデュケーションプログラム」に参加し、
一年間を通じて生徒たちの学びを支援しています。

中学校・高等学校
60校参加
(2007年度)

クエストエデュケーションとは

中学生・高校生を対象にした学習プログラムで、従来型の企業内インターンシップを学校の授業カリキュラムとして体験するものです。これは、生徒が実際の企業活動の一端に触れながら、働くことの意義や企業活動についての理解を深めることができます。生徒は数名のチームに分かれ、フィールドワークやアンケート調査などの企業研究を行った後、企業から提示されたミッション(課題)に取り組み、成果発表を行います。

2007年度は全国60校の中学校・高等学校が参加しました。

～当社からのミッション～

『史上最も“まっすぐで純粋な家族”をモデルにした、「シリーズCM企画」を提案せよ』



数名のチームに分かれ、ミッションに取り組みます。



当社の住宅展示場にて説明を受けています。



チーム内で出た意見をまとめます。



多くの生徒が主体性を持ってプログラムに取り組んでいます。

クエストエデュケーションプログラムの詳細につきましては、
株式会社 教育と探求社のホームページ(<http://www.eduq.jp/>)からご覧いただけます。

今後の想い

一人でも多くのこどもたちに未来の環境・社会について考えて欲しいと感じています。

小学生から高校生まで次代を担うこどもたちに『住まい』をキーワードとして、「家族とは何か?」あるいは「快適でエコな生活環境とは何か?」といったテーマを一緒に考えていくことが、住宅メーカーである私たちの重要な活動の一つと捉えています。

こどもたちとコミュニケーションを図ることで、逆に気付かされることや学ぶことがあり、それは私たちの人間力アップにもつながります。そういった観点でも『共創共生』を見据えた次世代とのコミュニケーションは今後も欠かせないと感じています。

CSR推進室

内田 雄司



住まいについての最新技術を体感しながら学ぶ「見学施設」

大和ハウス工業には見学施設として、東京・飯田橋の「D-TEC PLAZA」、奈良市の「総合技術研究所」、また各地域の工場があります。共に住まいについての最新技術(免震装置や未来住宅など)を体験しながら学んでいただくことができます。



D-TEC PLAZA(東京・飯田橋)



総合技術研究所(奈良市)

総合技術研究所 研究開発のテーマ

ア	ス	フ	カ	ケ	ツ
安全・安心	スピード・ストック	福祉	環境	健康	通信
徹底した検証に基づく安全・安心	工業化技術が生み出す高資産価値のストック	利用する人のすべてにやさしく、細やかな提案	心豊かに生きる社会の実現へ、次世代に向けての環境思考	心と体の健康のための住まいの技術	住まいと情報通信技術の融合

特集：従業員の
メッセージ

家族・

従業員との共創共生

自分に誇り

を持てる

会社



自分の会社のことを、家族をはじめ、いろいろな方々に「誇り」をもって話しができる。大和ハウスグループの従業員にはそうあってほしいと強く願っています。ここでは、「家族に誇れる会社」と「自分に誇りを持てる会社」という2つのテーマを設け、現場で活躍する従業員に語ってもらいました。



家族に
誇れる会社

育児休業制度の
活用



育児休業制度は従業員・企業双方にとって
メリットがあると思います。

私は営業職を担当しており、休みを取るというだけで大きなハンデを感じていました。それもあって、育児休業中の1年間は、こども中心の生活を送りながらも、今後仕事を続けていけるのだろうか、という不安がありました。しかし、職場復帰してからというもの、育児と

仕事の両立で休む暇がない状況でしたので、抱えていた不安はいつのまにか消えていました。そして、今では育児のために休業したことが、自分の成長のための大きな糧になったと感じています。

私は、2008年9月に第二子を出産する予定です。2009年3月まで再び育児休業制度を利用しますから、復帰後、2人のこどもを育てながらの仕事は、私にとっての新たな挑戦になります。

この制度に関しては、企業にとって経験豊富な人財を長期的にわたって確保できるというメリットがあると思います。利用を促し、復職する社員が増えれば、たくさんの人財が集まる良い企業へ発展していけるのではないのでしょうか。それを実現するためにも、さまざまな職種に対応した新しいルールの導入が必要不可欠だと考えています。

育児休業制度
新規取得者数
(2007年度)

69名

詳細は30ページ

家族に
誇れる会社

男性初の育児
休業制度の活用



男性従業員の育児参加を促すためには、
会社のバックアップが最も重要です。

私は、当社の男性従業員として初めて育児休業を取得しました。当初は1週間程度を想定していましたが、上司の「会社や社員に提案できるような経験をしてきてほしい」という後押しもあり、1ヶ月間の休業を取得することができました。

育児休業中は、円滑に業務は進んでいるだろうか、仲間に負

担はかかっていないだろうか、という心配もありました。しかし、育児のためだけに時間を使えたことは、長い人生の中で、とてもいい経験になったと今では強く感じています。あと、育児の面で妻をサポートできるようになったのも大きな成果の一つですね。

他の男性従業員からは、自分にこどもができたとしても制度の取得に踏み切れないという声も聞きます。そのため、取得する側にとっては、上司や同僚からの理解を得る努力はもちろん必要ですが、何より会社側からの積極的なバックアップが重要だと思っています。会社として育児休業制度や子育て休暇（ハローパパ）制度を拡充するとともに、こうした制度利用を促進するような職場環境をつくっていくことの大切さを改めて認識しました。

子育て休暇
(ハローパパ)制度
取得者数(2007年度)

170名

詳細は30ページ

家族に
誇れる会社

ボランティア休暇
の活用



さまざまな休暇制度の活用が、
人財育成につながると考えます。

中国での植林活動に参加するため、ボランティア休暇を取得しました。今回の経験を通じて感じたことは、私が土壤汚染や農業関連の仕事に携わっていることもあり、砂漠を農地化していかなければならない、という気持ちが強まったことです。また、日本だ

けでなく、世界にとって何か役立つことをしたいと思うようになり、日々の業務に対するモチベーションも上がりました。

この制度の優れた点は、自分の夢や趣味につながるボランティアを探したり企画したりでき、自分自身にとってプラスになる機会を自主的に設けることができること。5日間もあるため、海外に行くことも可能だということです。しかし、休みを取ることに抵抗感も正直あります。ですから、ボランティア「休暇」ではなく、仕事の一部という形にすれば、もっと利用しやすい制度になるのではないのでしょうか。また、従業員の自己研鑽を目的に、「社会科出張(勉強)」や「留学制度」など、さまざまな制度を導入することも、将来を見据えた人財育成につながっていくと考えています。

ボランティア休暇
利用者数(2007年度)

940名

詳細は30ページ

特集：従業員のメッセージ
従業員との共創共生「家族・自分に誇りを持てる会社」



自分に
誇りを持てる
会社

増改築・リフォーム
事業の推進



名古屋支社
名古屋増改築営業所

都筑 公昭

日々勉強しながら、
お客様の満足にお応えしています。

私の仕事は、営業を中心とする、住まいの点検やリフォームのご提案、そして現場の管理です。お客様と接する立場ですから、スムーズな現場運びと積極的なコミュニケーションをととても大事にしています。ですから、リフォームをしていただいたお客様に「大

自分に
誇りを持てる
会社

シルバー・福祉
施設の普及



建築事業推進部
医療・介護事業グループ主任

花輪 悟朗

高齢社会を見据え、老後も楽しく快適に
過ごせる「生活の場」を提供していきたいです。

私は日々の業務において、医療法人や民間介護事業者に対する高齢者専用賃貸住宅・有料老人ホームなどのご提案や、医療・介護事業の最新情報の取得、さらには事業を成立させるための新しいスキームの構築などに取り組んでいます。

その中での仕事のやりがいは、高齢者の方々が快適に楽しく

自分に
誇りを持てる
会社

技能五輪全国
大会※ 金賞受賞



大和リゾート株式会社
長浜ロイヤルホテル 料飲部

梅本 康恵

常に挑戦する気持ちが、
自己成長・自己実現につながっていきます。

私の所属は料飲部で、お客様の最前線でサービスを行うセクションです。そのため、初めてお目にかかったお客様に安心感を抱いていただけるよう、「笑顔第一」を常に心掛けて行動しています。また、「Manners Instructor (マナーズインストラクター)」

※「技能五輪全国大会」：中央職業能力開発協会が主催する、青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会。

和ハウスにして良かった」「次も都筑さんをお願いしたい」と言っていたときや、お客様が今の住まいに対して抱いているご不満を解決し、ご期待以上のリフォームを提供できたときは、とてもやりがいを感じますね。

今の住宅業界では、「フローからストックへ」の転換が求められています。そのため、お客様の資産価値を守り、愛着をさらに深めていただけるようなリフォームはもちろん、太陽光発電設備・省エネ機器・断熱リフォームなど、地球環境に配慮した改築を提案していくことが重要になってきます。住宅設備はどんどん良い商品が出てきていますので、私自身が日々勉強しながら、お客様に納得いただける提案活動を展開していきたいです。そして、顧客満足を高めていくためにも、より密な現場管理と十分なご説明に注力していきたいと考えています。

生活し、尊厳ある人生を送っていただけるようにすること。また、高齢社会が進展する中、ご家族の皆様の負担軽減に微力ながら貢献していくことです。

私たち大和ハウスグループは、これまで数多くの住宅を提案・提供してきました。住宅分野で築き上げてきた技術を「老人ホーム」などの福祉施設にも活かし、ハウスメーカーならではの住み心地のいい施設が提供できていると自負しています。しかし、建物というハード面の追求だけではなく、そこに住まれる方々がいつまでも安心して暮らせるよう、建物や設備に不具合が発生した際に24時間対応できるコールセンターを設置するなど、きめ細かなサービスを提供していくこそが非常に大切だと思います。

今後の目標としては、大和ハウスグループ全体で連携を図り、高齢者の方とご家族が「安心」「快適」に生活できる場所をハード・ソフトの両面から提供していきたいと考えています。

を兼務していますので、館内のサービス向上にも全力で取り組んでいます。

技能五輪への出場は今回が2度目です。1度目に心に残した悔しさと無念さを晴らすため、再チャレンジを決心しました。本番では、課題に対する事前対処と基本に忠実であったこと、そして冷静に笑顔で立振舞ができたことが総合的に良い印象を持っていただけと思っています。この受賞は、私にとってとても大切な経験となり、私に会いたいとわざわざホテルを訪れてくださるお客様もいらっしゃいました。このような出来事の積み重ねが、これからの成長を支える礎になると強く信じています。

組織の一員としての役割を果たすことは当然のこと。その上に、自らの技術向上に向けて、資格取得やコンテストに挑戦することこそが、自己成長・自己実現につながり、ひいてはお客様や仲間たちとのより良い関係づくりに反映されると考えています。

人財(人材)・雇用・職場環境に関して(方針)

当社は、「自主選択」「自立」という考え方のもと、従業員一人ひとりが自らのキャリア・デザインを意識できるように、また、多様化する職業観の中でより働きやすい環境づくりをめざし、各種人事制度の改定を進めています。

また、労働環境の改善にも力を入れており、長時間労働の是正を基本として、休日の確保、年次有給休暇の計画的取得など、健康への配慮と同時に家庭生活の充実へ向けた支援を強化しています。今後も「労働環境整備」「人財育成」に重点を置き、持続的発展に努めていきます。

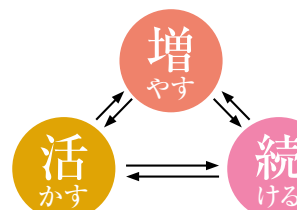
詳細はWebへ

女性が活躍できる会社を目指して(方針)

当社では、性別に関わりなく多様な個性をもった人財が能力を最大限に発揮できるよう、また、共に働く仲間として認め合い、お互いに影響し合い、働きやすい職場環境をつくることを目指しています。

2007年5月、女性活躍の推進組織として、人事部に「Waveはあと推進室」を設置しました。今後、さらなる新制度の導入を進めるなど、より実行力のある施策を推進していきます。

女性が活躍するための3本柱



女性人員目標

積極的・戦略的採用計画

- 女性の採用比率30%
- 2015年、女性社員比率30%へ

女性社員の登用の拡大

- 2010年、女性社員のリーダー比率を5%とする

「Waveはあと」とは

Woman's (女性の)
Ability (能力)
Vitalize (活気を与える)
Energize (元気づける)
はたらく
あなたらしく
とぎれることなく

ワークライフバランスの実現や次世代育成に配慮した各種施策を強化。

「育児休業制度」

出産・育児をする社員が今後も働き続けられるように、法を上回る基準で制度の見直しをしました。従来子どもが「1歳」に達するまでであったのを「3歳」に変更、配偶者が養育できる場合も取得可としました。

「子育て休暇(ハローパパ)」

出産した配偶者をもつ男性社員が、出生日から連続5営業日の休暇を取得できる制度。男性の育児への参加を意識付け、仕事と家庭の両立を考える機会を設けています。

「ボランティア休暇」

従業員が社会貢献活動を行う際に、年次有給休暇とは別に与えられる有給休暇制度。1年間で5日間、有給で社会貢献活動に参加することができます。

その他の制度についてはWebへ

コーポレート・ガバナンス

大和ハウスグループは、迅速かつ適正な意思決定と透明性が高く効率的な経営、法令遵守を推進する内部統制システムを確立し、コーポレート・ガバナンスを強化しています。

ガバナンス強化への取り組み

取締役への監督機能を強化し 透明性の高い経営を推進しています。

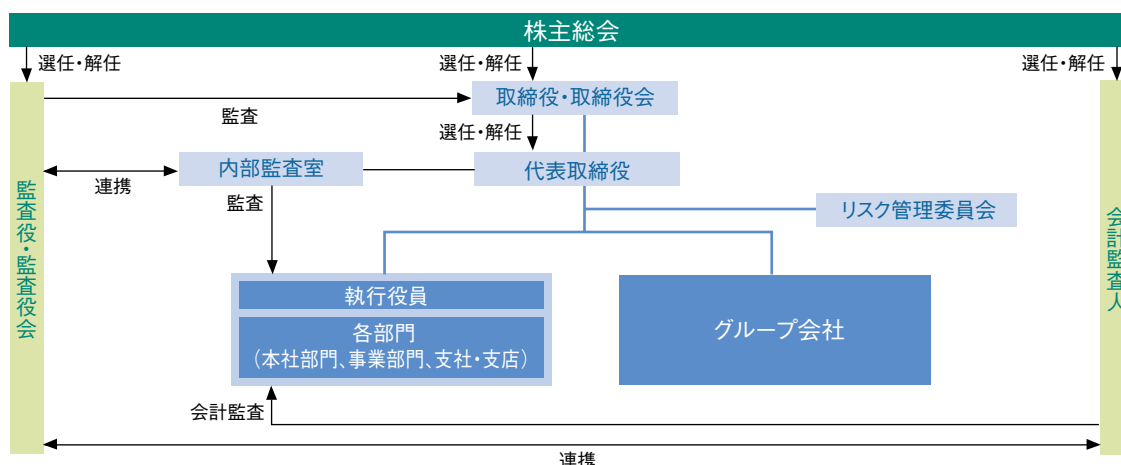
基本的な考え方

当社グループでは、継続的な企業価値向上や株主の皆さまをはじめとするステークホルダー（利害関係者）の信頼を高

めるという観点から、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。迅速・適正な意思決定と業務執行、並びに監督・監視体制を構築し、効率性と透明性の高い経営体制を確立することを基本姿勢としています。

また、2006年5月に定めた「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、コーポレート・ガバナンスの一層の強化に努めています。

大和ハウスグループのコーポレート・ガバナンス体制



リスク管理委員会の活動

企業リスクを低減し、 内部統制の強化を進めています。

当社は、お客様からのお申し出に対する適正・迅速な処置および再発防止策の立案、業務改善の提案を目的とし、1999年9月に「リスク管理委員会」を立ち上げました。

2002年4月には、当社グループのリスク管理体制に関する「グループ・リスク管理規程」を制定。「リスク管理委員会」は同規程においてリスク管理の統括機関と位置づけており、経営管理本部長を委員長、本社各部門長を委員とし、リスク事案の情報集約、具体的措置、業務上の問題点の改善などを検討しています。

現在は、2006年5月に定めた「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、リスク管理委員会を中心に、当社グループ全体の内部統制システムの構築に取り組んでいます。具体的には、法令遵守および業務効率の向上を目指すための一つの手段として、事業ごとに「コンプライアンスチェックリスト」を作成し運用を始めています。

不祥事が起こらない職場環境を目指して

不祥事防止を目的に、「CSRと企業倫理」 の研修を実施しています。

「不祥事を起こさないための考え方」を推進するために、従業員に対するCSR・企業倫理の研修・啓蒙活動を実施しています。2007年度の実施状況は下記のとおりです。

1. [大和ハウス工業] CSR階層別研修・事業所研修 計98回・5,204名受講
2. [グループ会社] CSR階層別研修・事業所研修 計74回・2,566名受講
3. コンプライアンス研修 計158回・9,320名受講
4. CSRニュースによる啓蒙 12回（毎月発行）



企業倫理綱領の解説



リゾートホテルでの研修会の様子

企業倫理綱領・行動指針の徹底

グループ全従業員に配付し、意識の共有と周知徹底を図っています。

当社グループでは、2004年4月に、経営理念・方針を実現するための基礎となる行動原則を明文化した「企業倫理綱領」および、それをより細かく補足した「行動指針」を策定しました。2008年4月には、企業倫理綱領・行動指針・89のケーススタディ・企業倫理ヘルプライン通報窓口を掲載した「大和ハウスグループCASE BOOK」(教育用小冊子)を第三版として作成し、グループ全従業員に配付。倫理綱領に沿った行動の周知徹底に取り組んでいます。



基本原則

人権の尊重

お客様・取引先・従業員をはじめ、あらゆる人の尊厳と基本的人権を尊重して行動すること。

法令の遵守

各事業に関連する法律はもとより、全ての法令を遵守することを企業倫理の最下限と認識すること。

環境保全

地球環境の保全に積極的に取り組むこと。

- 第一条 お客様の信頼を得られる行動
- 第二条 調達先等との適切な関係構築
- 第三条 働きやすい職場環境づくり
- 第四条 倫理観の向上
- 第五条 公正な事業競争
- 第六条 反社会的勢力との関係遮断
- 第七条 環境への取り組み

(大和ハウスグループ)企業倫理ヘルプラインの運用

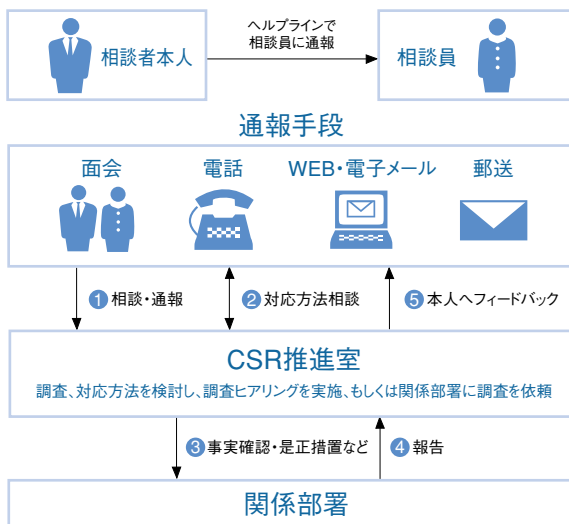
さまざまな職場・業務における課題の早期発見に役立っています。

当社グループでは、パートタイマーや派遣従業員を含むグループ全従業員が利用できる内部通報窓口「(大和ハウスグループ)企業倫理ヘルプライン」を2004年4月に開設。同時に、通報者が通報によって不利益な取り扱いを受けないよう、「企業倫理ヘルプライン・内部通報者保護規程」を制定・運用しています。

2007年度は、職場環境や人間関係に関する相談・問題を中心に年間231件の情報を吸いあげることができました。こうした声をもとに、解決すべき課題の早期発見に努めています。

相談・情報
231件

企業倫理ヘルプライン体制図



当社ホテル「社内利用券」の不正使用について

2001年度から2006年度の6年間に、当社のホテル事業において社員用に作成していた割引利用券を、ホテル運営会社である大和リゾートが増刷し、当社より社内上の利益補填を得ていたことが発覚しました。

当社としましては、社内監査にてこの事実を確認後、関係者の処分を行いました。また同じことを起こさないために、社員利用券(保養所利用券)を廃止し、IDにより利用状況を管理できるように変更しました。

ニチアス製耐火・準耐火建材の認定不正取得について

2007年10月、ニチアス株式会社の住宅用軒裏天井材および耐火間仕切壁の一部について、耐火・準耐火性能に関する認定が不正に取得されていたことが判明しました。

当該住宅用軒裏天井材につきましては、当社の鉄骨戸建住宅および低層の鉄骨賃貸住宅においては使用されておりましたが、木造戸建住宅の一部である419棟に使用されていることが判明し、うち準耐火性能を満たしていない344棟について改修の必要が生じました。また、耐火間仕切壁につきましては、14棟について改修の必要があることが判明しています。

当社としましては、供給者としての責任を果たすため、改修の必要な物件について個別にお客様と協議の上、改修工事に着手しています。2008年6月20日現在で144棟について改修を完了、未完了の物件についても早急に進めてまいります。

CSR自己評価指標 (CSRマネジメント)

CSRに関する自己評価指標

当社グループでは、2006年4月に「CSR自己評価指標 (CSRマネジメント)」を策定し、目標達成に向けた活動を開始しました。

この指標は、CSRに関する取り組みの中で、当社グループが重要視する6分野45項目について、目標を数値化し、現在値や到達点を明確にすることで、取り組みのレベルを上げていくものです。

当社およびグループ全社において共通で取り組む項目や、業種業態に沿った各社個別の取り組み項目にそれぞれ目標値と施策を定め、1年 (項目によっては半年) 単位で進捗状況を確認し、PDCAサイクルに則って改善していくことを目的としています。

2007年度は、45項目の指標のうち、16項目について期首に設定した目標を達成しました。また、取り組み実績を点数化した結果は1,200点満点中733点で、目標達成度は78.4%でした (2007年度の目標は935点)。

※2006年度 (初年度) は1,000点満点 (お客様・株主・従業員・環境の4分野は200点満点、取引先・社会の2分野は100点満点) としていましたが、2007年度からは1,200点満点 (全分野200点満点に統一) としています。

■CSR自己評価指標の設定方法

- ①各分野 (ステークホルダー) にとって代表的な指標であること
- ②結果が毎年定期的に公開されるか、または把握できること
- ③会社の努力で数値を上昇させることができること
- ④社会・環境面だけでなく経済性 (業績) も含む指標であること

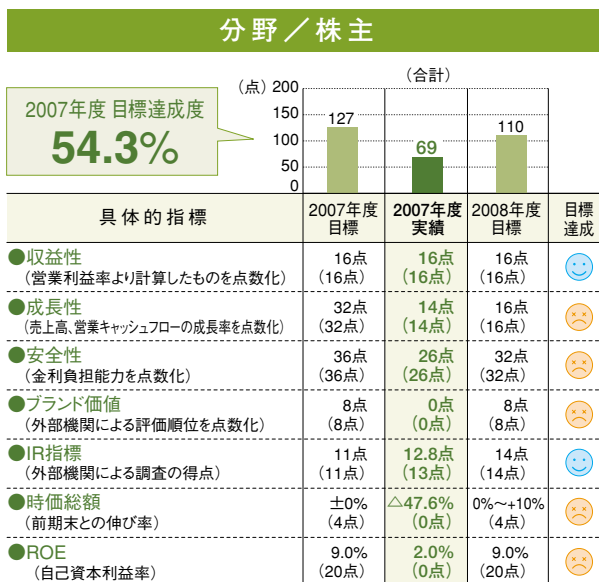
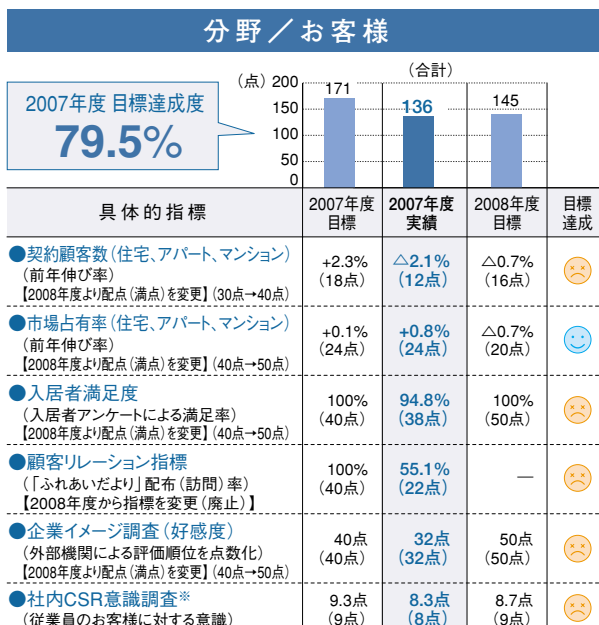
※評価指標・評価測定方法については、適宜、見直し・改善を実施しています。

※現在、社外有識者および社内関連部門と協議を進めており、社会的課題の解決に向け当社グループが今後推進すべき事項についても、2009年度から指標として取り入れる予定です。

CSR自己評価指標 (CSRマネジメント) 2007年度実績

①6分野の合計が1,200点満点になります。

②各指標の目標・実績欄における上段数値は実数を記載、下段の () 内数値はその実数を当社の評価基準に従い点数化したものです。



活動において

CSR自己評価指標 (CSRマネジメント) はCSR活動の取り組み状況を数値で表わすことにより、自社の進捗状況を明確化し強化することを狙いとしています。

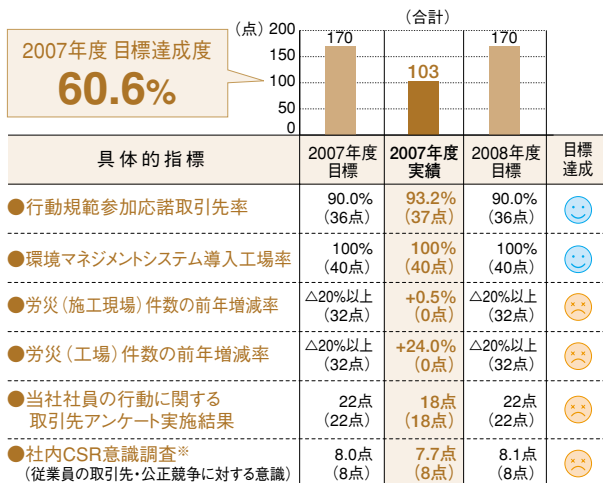
2006年度にこの仕組みを導入してから、社外の方からも多くのお問い合わせをいただき、改めてこの指標の持つ重みや意味合いを感じています。

自社の取り組みについて目標設定しその結果を開示することは、企業として社会的責任の一端を果たすことにもつながります。現行の45指標は社内外の声を受け、適宜見直しをし、社内でもCSRを推進するための後押しをしたいと考えています。

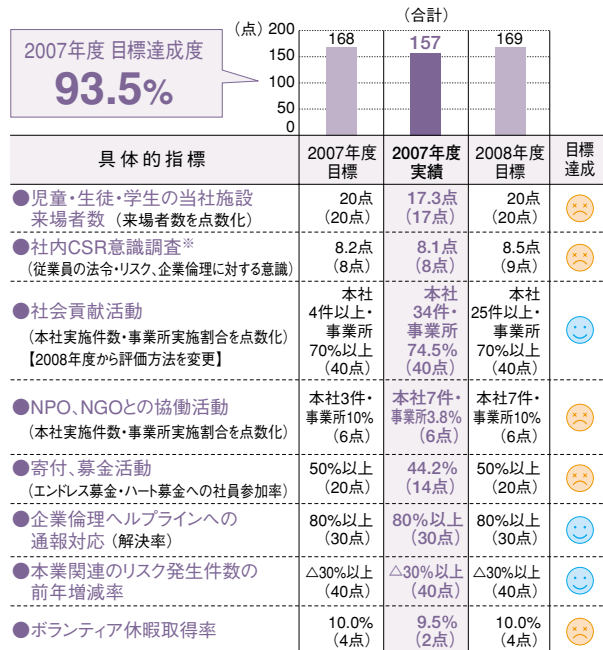
CSR推進室 主任 **小西 淳史**



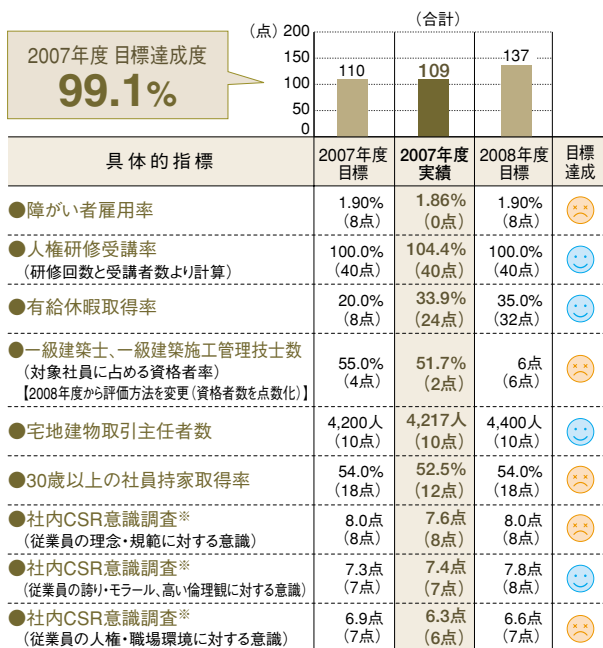
分野／取引先



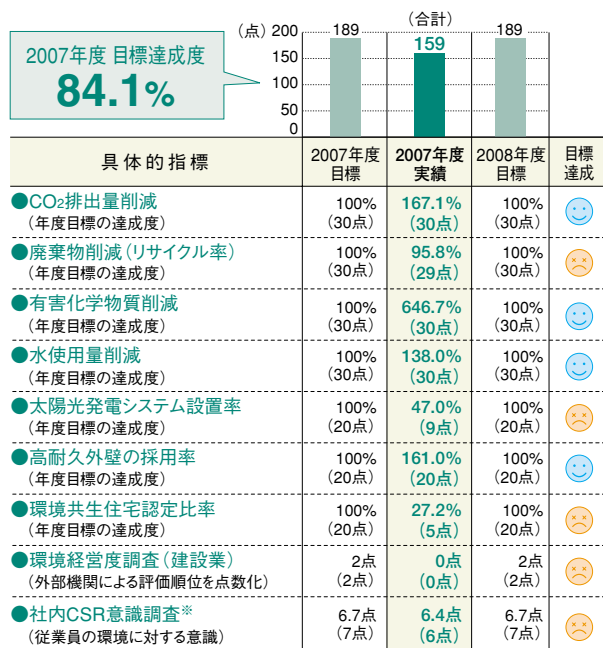
分野／社会



分野／従業員



分野／環境

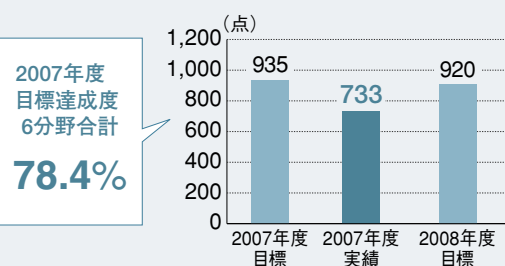


目標達成欄は、

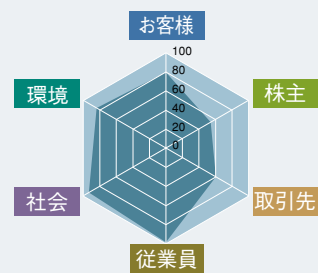
😊 目標
達成 😞 目標
未達成
にて表示しています。

※CSR意識調査：社内アンケートで、人権意識、法令遵守、環境保全など、50の設問項目で構成しています。また、結果を独自に点数化し、設問項目ごとに分析しています。

CSR自己評価指標合計



CSR自己評価分野別達成率



環境行動計画2005の実績と自己評価

事業活動プロセス、商品それぞれに環境行動計画(3カ年計画)を策定し、実績の評価と改善を繰り返すことで継続的な環境活動を推進しています。

自己評価基準

環境行動計画における目標の達成度を人の表情をモチーフにして三段階で表現しました。



2004年度実績よりも改善し、2007年度目標も達成しました。



2004年度実績よりも改善しましたが、2007年度目標は達成できませんでした。



2004年度実績よりも悪化し、2007年度目標も達成できませんでした。

事業活動プロセスにおける環境負荷低減

環境目的	全社目標(2007年度)	目標と実績(全社)	自己評価	部門別実績(2007年度)		
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量 2004年度比 -7% (売上高あたり)	CO₂排出量 (kg-CO₂/百万円) CO₂排出量 2004年度比 -11.7% (売上高あたり)	・車両を除くすべての部門で目標を達成し、全社目標を大幅に上回る成果を上げることができました。 ・今後は、部門毎にCO₂排出量の総量目標を設定し、総量での削減を目指します。 😊 全社	事務	-18.2% (従業員1人あたり)	😊
				車両 (社員による業務使用)	-2.1% (売上高あたり)	😊
廃棄物削減	廃棄物排出量 2004年度比 -20% (売上高あたり)	廃棄物排出量 (kg/百万円) 廃棄物排出量 2004年度比 -12.9% (売上高あたり)	・住宅系部門では部材のプレカット等が定着し大幅に削減できましたが、建築系部門の増加がそれを上回り、全社目標を達成できませんでした。 ・今後は住宅系部門の改善を継続するとともに、建築系部門でのシステム建築化率の向上を図り、総量での削減を目指します。 😐 全社	生産	-1.2% (工場売上原価あたり)	😊
	リサイクル率 90%以上	リサイクル率 (%) リサイクル率 86.2%	・2005年度、住宅系新築現場でゼロエミッションを達成したことなどから、リサイクル率は年々向上していましたが、全社目標には達しませんでした。 ・今後は、大きな割合を占める建設系廃棄物に焦点を当て、さらなるリサイクル率の向上に取り組みます。 😐 全社	住宅系新築	-57.4% (住宅系売上高あたり)	😊
				建築系新築	+32.2% (建築系売上高あたり)	😐
				ホテル	+8.6% (利用者1人あたり)	😐
				ホームセンター	-18.9% (売上高あたり)	😊
有害化学物質削減	PRTR対象有害化学物質 使用量 2004年度比 -3% (工場売上原価あたり)	PRTR対象有害化学物質使用量 (kg/百万円) PRTR対象有害化学物質使用量 2004年度比 -19.4% (工場売上原価あたり)	・住宅部門での3物質(※)の全廃、キシレン・マンガン削減、建築部門での鉛・クロムフリー塗料への代替などにより、全社目標を大幅に上回る成果を上げることができました。 ・今後は、総合的な化学物質管理の体制強化に取り組み、総量での削減を目指します。 ※フタル酸ジ-n-ブチル、ポリ(オキシエチレン)エーテル、ジクロロメタン 😊 全社	生産	-19.4% (工場売上原価あたり)	😊
	水使用量 2004年度比 -15% (売上高あたり)	水使用量 (m³/百万円) 水使用量 2004年度比 -20.7% (売上高あたり)	・すべての部門で改善が進み、全社目標を上回る成果を上げることができました。 ・今後は、水を大量に使用するホテル・スポーツクラブ等にも焦点を当て、削減活動を推進します。 😊 全社	事務	-19.5% (従業員1人あたり)	😊
水資源保護				生産	-28.6% (工場売上原価あたり)	😊
				ホームセンター	-13.0% (売上高あたり)	😊

●原単位を目標数値として設定している理由

大和ハウス工業は環境行動計画の目標数値を売上高原単位で管理しています。通常、売上高の増加にともない環境負荷は増大する傾向にあるため、総量での管理では改善度合いがわかりにくくなります。そこで、改善度合いを正確に把握するために原単位を管理指標とし、目標設定を行っています。なお2007年度の売上高は1,273,813百万円(大和ハウス工業(株)、ロイヤルホームセンター(株)、大和リゾート(株))です。水資源保護の原単位の売上高は、1,220,283百万円(大和ハウス工業(株)、ロイヤルホームセンター(株))です。

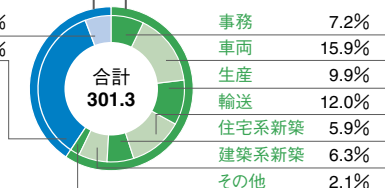
大和ハウスグループの環境負荷総量（2007年度）

CO₂排出量（千t-CO₂）

グループ会社 122.6

大和ハウス工業 178.7

ホームセンター 5.8%
ホテル 34.9%

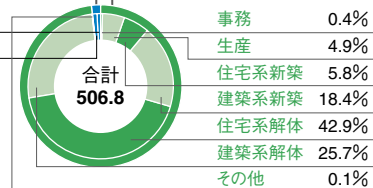


廃棄物排出量（千t）

グループ会社 9.3

大和ハウス工業 497.5

ホームセンター 0.8%
ホテル 1.0%



商品における環境負荷低減

環境目的	全社目標（2007年度）	目標と実績（戸建住宅）	自己評価
地球温暖化防止	太陽光発電システムの普及 設置率 30%以上	太陽光発電システム設置率 設置率 14.1%	- 主力商品「xevoE」に標準搭載し、「ecoナビゲーター（※）」にてお客様にメリットをわかりやすく提示することで普及を図ってきた結果、設置率は2004年度に比べ約10倍の14.1%になりましたが、全社目標である30%には達しませんでした。 - 今後は、2010年度までの設置率目標を再度30%に設定し、一層の普及に注力します。 ※ecoナビゲーター：独自に開発したエネルギーシミュレーションソフト
	次世代省エネルギー基準対応住宅の普及 達成率 100%	次世代省エネルギー基準達成率 達成率 97.8%	- 一部在来工法での物件等に対応できず、全社目標である100%は達成できませんでした。 - 今後は、次世代省エネ基準を上回る独自基準により、さらなる高断熱住宅の普及に取り組みます。
	高効率給湯器の普及 設置率 35%以上	高効率給湯器設置率 設置率 43.9%	「ecoナビゲーター（※）」にてお客様にメリットをわかりやすく提示することで普及を図ってきた結果、設置率は2004年度に比べ約4倍の43.9%となり、全社目標を上回る成果を上げることができました。 - 今後も、引き続き設置率の向上を目指し、積極的な提案に努めます。 ※ecoナビゲーター：独自に開発したエネルギーシミュレーションソフト
長寿命化	高耐久外壁※の普及 採用率 50%以上	高耐久外壁※の採用率 採用率 80.5%	- XE（ジー）コートおよび外張り断熱通気外壁を標準仕様とした「xevo」の販売が順調に拡大し、全社目標を大幅に上回る成果を上げることができました。 - 今後は、外壁のみならず住宅躯体全体の高耐久基準を定め、戸建住宅商品で基準適合率100%の達成を目指します。 ※高耐久外壁：外壁の劣化を抑えるXEコート、および結露を防ぐ外張り断熱通気外壁。
健康・緑化	環境共生住宅認定物件の普及 認定率 50%以上	環境共生住宅認定率 認定率 13.6%	- 分譲住宅を中心に積極的に認定取得に努め、昨年の約2倍にあたる1,458棟の住宅で認定を取得しましたが、全社目標である50%には大きく及びませんでした。 - 今後は、分譲住宅での100%認定取得を目標に、さらなる推進を図ります。



・地球温暖化防止への取り組み ・廃棄物削減への取り組み ・有害化学物質削減への取り組み
・水資源保護への取り組み

エンドレス グリーン プログラム 2010

3ヶ年の「環境行動計画2005」の結果を踏まえ、2008～2010年度の新たな行動計画を策定しました。「エンドレス グリーン プログラム 2010」では、地球温暖化防止を最重要テーマに、グループ連携による取り組みの拡大・強化を図ります。

ポイント
1

行動計画の対象範囲を環境負荷の大きい主要グループ会社へ拡大します。

現在の3社に10社を加え、合計13社で数値目標を設定し、取り組みを推進します。

第1ステップ
(2005～2007年)

3社

・大和ハウス工業
・大和リゾート
・ロイヤルホームセンター

+

第2ステップ
(2008～2010年)

10社（環境負荷の大きい主要グループ会社）

・大和物流
・大和リース
・ダイワラクダ工業
・ダイワハウス・リニュー
・大和エネルギー
・大和情報サービス
・ダイワロイヤル
・大阪マルビル
・日本体育施設運営
・ダイワロイヤルゴルフ

第3ステップ
(2011年～)

グループ全体の環境マネジメントシステムを構築

ポイント
2

「地球温暖化防止」を最重要テーマとし、『CO₂ダブルスコアの達成』を全社目標の中核として、全事業活動プロセス、全事業領域での取り組みを強化します。

最重要テーマ
地球温暖化防止

資源保護

環境活動重点テーマ

自然環境との調和

有害化学物質による汚染防止

グループ全体目標の中核『CO₂ダブルスコアの達成』

「地球温暖化防止」への取り組み

■基本的な考え方

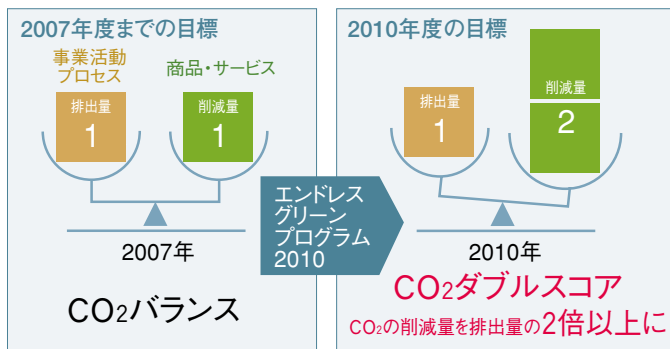
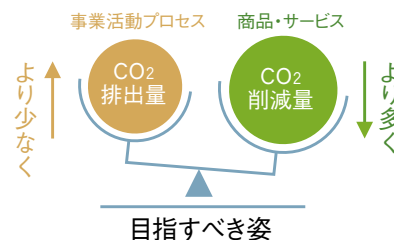
事業活動プロセスにおけるCO₂排出量をより少なく、提供する商品・サービスを通じたCO₂削減量をより多く、事業活動と商品・サービスの両面から「地球温暖化防止」に取り組みます。

■3ヶ年（2010年度まで）の到達点

当社グループの提供する住宅や建築物の省エネ対策によるCO₂削減量をさらに拡大、2010年度までにCO₂の削減量を排出量の2倍以上にすることを目指します。

■主な取り組み

商品 住宅：太陽光発電システムの普及
建築：省エネ設計の推進
事業活動 オフィス：エネルギーモニタリングによる運用改善
車両：「エコ自動車手当」導入による燃費向上
物流：モーダルシフトの推進



担当者の声

「エンドレス グリーン プログラム 2010」の策定にあたっては、全従業員が共有できる『わかりやすい指標』づくりが最大の課題でした。「どんな企業になりたいか?」という会話の中で、一人が発した「私たちの事業で地球に負担をかけた分以上に、地球に貢献する企業でありたいね」という一言がきっかけとなり、そこから、「かけた負担の2倍以上は貢献しよう」という『CO₂ダブルスコア』の目標が生まれました。今後は『CO₂ダブルスコアの達成』を合言葉に、従業員の皆さんと共に環境改善活動を推進していきます。

環境部 企画・温暖化対策推進グループ 主任 住山 裕子



2010年度までのグループ全体目標

①事業活動プロセスにおける環境負荷低減

環境目的	項目	対象範囲※1	管理指標	2010年度グループ全体目標
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量の削減	事務・建設系部門 (事務・営業車・工場・輸送・施工現場 等)	CO ₂ 排出総量	4%削減(2007年度比)
		サービス部門 (ホテル・ホームセンター・ショッピングセンター 等)	売上高あたりのCO ₂ 排出量	6%削減(2007年度比)
廃棄物削減	廃棄物排出量の削減	工場・施工現場 (大和ハウス・大和リース・ダイワラクダ)	建設系廃棄物排出総量(解体を除く)	10%削減(2007年度比)
	リサイクル率の向上	工場・施工現場 (大和ハウス・大和リース・ダイワラクダ)	建設系廃棄物のリサイクル率(解体を除く)	85%以上
資源保護	水使用量の削減	リゾートホテル (大和リゾート)	利用客1人あたりの水使用量	3%削減(2007年度比)
		都市型ホテル (ダイワロイアル)	利用客1人あたりの水使用量	8%削減(2007年度比)
		スポーツクラブ (日本体育施設運営)	会員数あたりの水使用量	3%削減(2007年度比)
	紙使用量の削減	事務部門 (大和ハウス)	従業員1人あたりの紙購入量	6%削減(2007年度比)
有害化学物質削減	PRTR対象有害化学物質使用量の削減	工場 (大和ハウス・大和リース・ダイワラクダ)	PRTR対象有害化学物質使用総量	5%削減(2007年度比)
自然環境との調和	緑化の推進	工場 (大和ハウス)	植樹本数	100,000本以上 (3年間累計)
環境活動の輪の拡大	グリーン購入の推進	事務部門 (大和ハウス)	グリーン購入率(金額比)	95%以上 主要6品目※2
	グリーン調達推進	住宅部門 (大和ハウス)	(2008年度中に目標設定)	
		建築部門 (大和ハウス)	グリーン調達実施現場比率	50%以上

※1 環境負荷の大きい部門を全体目標の対象としています。

※2 コピー用紙、帳票類、カタログ類、事務用品類、オフィス家具、OA機器

②商品・サービスによる環境負荷低減

環境目的	項目	対象範囲	管理指標	2010年度グループ全体目標
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量の削減	全事業領域	CO ₂ 排出削減量(1990年時との比較)	事業活動によるCO ₂ 排出総量の2倍以上
資源保護	高耐久商品の普及	戸建住宅 (鉄骨商品)	高耐久商品※1の採用率(=当該商品の売上棟数/売上棟数)	100%達成
	資源循環型商品の普及	流通店舗 (小規模店舗)	資源循環型商品※2の採用棟数	年間150棟以上
自然環境との調和	緑化の推進	戸建住宅	環境共生住宅認定率	分譲住宅100%
		集合住宅	自主緑化指針適合率	70%以上
		マンション	自主緑化指針適合率	50%以上
		建築系事業	(2008年度中に実績把握&目標設定)	

※1 躯体保証:20年、防水保証:15年

※2 リ・ストア&リ・ビルドシステム

③環境経営の基盤強化

項目	内容	2008～2010年度	
環境マネジメント	主要グループ会社への拡大	・環境データの収集(2008～)	・グループ環境マネジメントレビューの実施
	サプライチェーンへの拡大	調達	・グリーン調達基準の運用強化 ・現地審査の実施
		物流	・協力会社のグリーン経営認証の取得を推進 ・協力会社へのエコドライブ活動を拡大
		施工	・省エネ型建設機械への切り替えを推進 ・協力会社へのエコドライブ活動を拡大
	環境教育の充実	・eラーニングの導入(大和ハウス)	・リーダー研修の実施
環境コミュニケーション	情報発信・対話機会の充実	・蓄積型WEBサイトによる開示情報の充実 ・(事業所での)ステークホルダーミーティングの実施 ・生産拠点のサイトレポート発行(WEB公開) ・グループ会社別CSRレポートの発行(WEB公開)	
	社会貢献活動の充実	・こどもエコ・ワークショップの継続開催 ・環境出張授業の展開	

ステークホルダーとの対話

2007年10月30日(火)、大和ハウス工業(株)本社においてステークホルダーミーティングを開催しました。

4回目となる今回は当社の環境・社会への取り組みや考え方などについてご報告し、一般公募で募集したステークホルダーの方々に当社従業員を交えディスカッションを行いました。

ディスカッションでは「住まいと暮らしのCO₂削減」「環境コミュニケーション」「街づくりについて」「ダイバーシティへの取り組み」の4つをテーマに話し合い、当社の姿勢や取り組みについて、さまざまなご意見をいただきました。

開催概要

- 日時:2007年10月30日(火) 13:00~17:30
- 場所:大和ハウス本社ビル
- 参加ステークホルダー(計22名):企業担当者(3名)・学生(4名)・研究・教育機関(2名)・取引先(2名)・入居者(2名)・一般消費者(5名)・その他(1名)・従業員(3名)



ファシリテーター

小山 巖也氏
関東学院大学 准教授



一般消費者

湯本 秀明氏



取引先

佐々木 俊一氏
フクビ化学工業株式会社



企業担当者

吉川 智美氏
ゲンゼ株式会社

住まいと暮らしのCO₂削減

ご意見 住み手側はエネルギーを何に使っているかわからないのでエネルギーの「見える化」をしてほしい。

回答 <大和ハウス工業より>

ご指摘のとおり、現状の省エネモニターでは電力総使用量しか把握できないため、「見える化」への対応はこれからだと考えています。

省エネ対策には、どこでどれだけエネルギーが消費されているのかという現状把握が必要ですが、光熱費関係の請求書から総量はわかっても、用途別に把握できないという現状があります。そのため、お客様が入居後に「どのような生活をしていくか」を使用エネルギーを見ながら判断するためには、その目的にかなうシステムを開発することが必要だと考えています。今後、部屋別・主要機器別等の使用エネルギーの「見える化」への対応と省エネのアドバイスのできるようなサービスの開発を検討していきたいと考えています。

環境コミュニケーション

ご意見 建てた後は「どうしたら快適に暮らせるか」等のソフト面の情報を提供してほしい。

回答 <大和ハウス工業より>

当社ではダイワファミリー倶楽部というWebサイト(当社住宅のご入居者様専用サイト)において住まいと暮らしにおける情報をタイムリーにご提供しています。また、冊子においては「Okaeri」(年2回発行)と「LH(ライブハウジング)通信」(毎月発行)などを発行しており、Webサイトと冊子の双方において住まいのメンテナンス情報や四季のガーデニング等をご紹介します。

これからの暮らしは、環境に配慮しながら快適性を追求していく必要があります。暑ければクーラーをつければよいという時代は終わり、いかにして電気を使わずに夏の暑さを凌ぐかというような暮らしの工夫が必要になると考えています。

例えば、打ち水などかつての日本には自然をうまく活用した快適な暮らしの工夫がありました。昔の日本の暮らしにヒントを探しつつ、これを現代風にアレンジした「新しい日本の暮らし」をご提案していきたいと考えています。

街づくりについて

ご意見 植栽を住宅のどの方向に植えるかによって、風の流れが変わることがあるのか？

回答 <大和ハウス工業より>

古来から住宅の周りに植えられていた「屋敷林」はその典型的な例で、冬の北風を遮り、敷地内に冷たい風を入れない防風林の効果があります。そのような先人の知恵に習い、例えば越谷レイクタウン戸建街区では「屋敷林」と同様の効果をねらった計画として、街区北西外周道路沿いに高垣を植える等、設計上の工夫をしています。

☞ 本紙P15～(越谷レイクタウン)参照

ダイバーシティへの取り組み

ご意見 出産・育児に関する制度は充実してきているが、それだけでは女性は活躍できない。女性が活躍できる制度・働きやすい職場環境を整えてほしい。

回答 <大和ハウス工業より>

女性が働き続け活躍していくためには、制度を整えていくことが最優先だと考えています。2007年5月に女性活躍推進の組織として人事部に「Waveはあと推進室」を設置し、地区ごとに「推進委員」を任命するなど、働きやすい職場環境を目指すための組織整備を行っています。現在、Waveはあと推進室は各地区の推進委員と情報交換を行ったり、事業所訪問することで現場の声をヒアリングしています。

また、当社では2007年11月より、管理職を対象とした「ダイバーシティ研修」を実施しています。これは従業員一人ひとりの能力・意欲・価値観を尊重した人材育成を意識して行っていくことを目的としており、今後も管理職に向けての研修を順次実施していく予定です。

☞ 本紙P27～(従業員のメッセージ)参照



入居者

香月 亜美氏



学生

中西 睦美氏
同志社女子大学



従業員

小部 慶美氏

ステークホルダーミーティング2006 ご意見を受けての改善事例(ご報告)

改善事例 1 地球温暖化防止への取り組み

2006年度ステークホルダーミーティングより

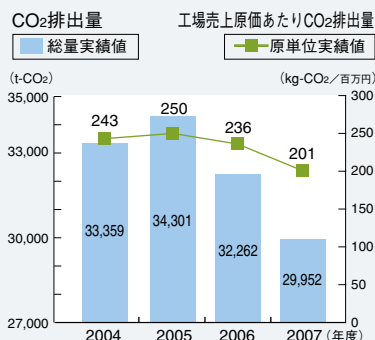
生産部門のCO₂排出量が、2004年度に比べ2005年度は増加しているので改善をするべき。

ご報告 <大和ハウス工業より>

2007年度の生産部門のCO₂排出量は、総量で10.2%削減、工場売上原価あたりで17.2%削減(ともに2004年度比)できました。

これは、5工場で自家発電を廃止したことに加え、3工場で電着ラインにおける乾燥炉やボイラーの燃料を重油からガス燃料へ転換した結果です。今後もCO₂排出量の過半を占める電着ラインを中心に総量削減に取り組んでいきます。

生産部門のCO₂排出量の推移



改善事例 2 社会貢献活動への取り組み

2006年度ステークホルダーミーティングより

社会で今何が必要とされているかということをNPO団体と情報交換して欲しい。NPO団体と協働・共存することで必要な部分が見えてくるのでは。

ご報告 <大和ハウス工業より>

2007年度はNPO団体を中心にCSR推進室の担当者が19団体を訪問しました。当社の社会貢献活動への取り組みや考え方をお伝えするとともに、各団体様からも活動内容のご説明をいただき情報交換を行いました。

例えば、(社)シャンティ国際ボランティア会様と情報交換を行い、「絵本を届ける運動」を通じて協働することができました。2008年度以降も継続的に各団体様と情報交流を進めながら協働・共存していきたいと考えています。



・ステークホルダーとの対話(詳細)

<http://www.daiwahouse.co.jp/csr/stakeholder/>

第三者意見

(社)日本フィナンソロピー協会
理事長

高橋 陽子氏



「人を育て、人をつなぐ」 CSR経営の進化を期待する

今年のCSRレポートは、冊子ではステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、ホームページでは、詳細の取り組み内容を記述した報告形態となっており、それぞれの特性を生かした開示で、より進化したレポートとなっています。

企業理念の「事業を通じて人を育てること」、経営ビジョンの「心を、つなごう」をわかりやすい形で具現化することがCSR経営の原点ですが、今年は、ステークホルダーの誰と共に生き、誰と共に創っていくのか、を明記したことで、読む人が自分ごととして捉えることができます。こうした表記は、「共創共生」を実現するために、各ステークホルダーに主体的に関わっていただくことへの強いメッセージとなっており、CSR経営実践への覚悟ある姿勢が窺えます。

「CSRに関する自己評価指標（冊子・Web）」は、評価方法、顔の表記、主管部門名などの項目を入れ、従業員全員にとって、課題達成のためのより強い動機付けになると思います。ただ、数字だけでなく、進まない理由や今後の課題などがあると、改良のプロセスを開示できることにつながり、問題の所在をより明確にし、目標達成も実効的なものになると思います。

ステークホルダー参加の 環境経営実践

住宅・建築を柱とする企業グループとして、今日の深刻な環境問題において責任ある対応への社会からの期待は非常に大きいと思われます。2010年に向けての「エンドレス グリーン プログラム 2010」は、『CO₂ダブルスコアの達成』に見られるように、関係者全員が意識し行動するためにわかりやすさを視野に入れ、意欲的な挑戦をされています。「住まい・暮らし」を核に据えた企業として、一般市民や関係者への影響力の大きさを考えると、今後は、先駆的な取り組みを実行すると同時に、各

ステークホルダーの意識変革・行動変革を促すという視点も求められます。それぞれのステークホルダーが暮らしや仕事の中での気づきにつながるような体制や、より積極的な取り組みが求められます。また、温暖化防止と並んで生態系保全、中でも生物多様性保全は、住まいづくり、街づくりにおいても重要な課題です。グループ会社、4つのサプライチェーン、そして顧客（個客）と共に、本業、社会貢献活動いずれにおいても、それらの課題解決への実践に期待します。

部門を超えた情報共有・参加で 「共創共生」を実感

また、シルバーエイジ研究所での研究開発、高齢者施設建設での多くの実績を個人住宅へのノウハウの提供などに活かしている具体的な記述があると、CSR経営をより重層的なものに、また広がりのあるものにできるのではないのでしょうか。これらは貴重な財産であり、社会資源だと思います。本業だけでなく、子どもへの住環境教育への応用など、横断的な情報開示と、その展開への工夫が待たれます。

各事業所での社員参加の社会貢献活動は、少しずつ全国的な広がりを見せていることが実感できます。Web版では、各事業所での取り組み事例が参加者の声や活動の様子とともに詳述されており、事業所間の情報交換やネットワーク作りに資するものとして非常に有効であると思います。エンドレス・ハート募金の社員参加率も50%に近く、「人と環境にやさしい」社員像が浮かんできます。さらに参加者を増やし、CSR意識の向上のためにも、寄付先との双方向のコミュニケーションを工夫することが人の心を起こすことにつながり、いい波及効果を生むと思います。

今後は、各事業部、事業所、グループ企業間の、さまざまな側面でのいっそうの連携を心がけ、ステークホルダーとの「共創共生」をより実効的なものとすることを期待します。

CSRレポート2007 ご意見を踏まえての取り組み

1

CSRレポート2007
第三者意見より

ご意見を踏まえて
の取り組み

地球温暖化への取り組みには、多大な努力を払っておられることは読み取れますが、「CO₂バランス企業」という表現は、排出量と削減量のバランスを取る、という考え方であり、これでは不十分である、という見方がされます。

「CO₂バランス」から「CO₂ダブルスコア」へ
「エンドレス グリーン プログラム 2010」では、より高い目標として【商品・サービスによるCO₂削減量】を【事業活動プロセスにおけるCO₂排出量】の2倍以上とする『CO₂ダブルスコア』の達成を掲げました。

👉 本紙P37(エンドレス グリーン プログラム 2010) 参照

2

CSRレポート2007
第三者意見より

ご意見を踏まえて
の取り組み

メンタルヘルスへの取り組みはまだまだ発展途上。

管理職を対象にメンタルヘルスをテーマにした専門研修を継続して実施しているのに加え、外部EAPサービス(Employee Assistance Program)・従業員支援プログラムを新たに導入しました。これは、従業員とその家族の方が公私にわたる悩みや心配事を専門のカウンセラーに相談できる制度です。また、2008年度は全従業員に対し社内調査を行い、従業員の心身にわたる健康の保持増進をさらに図っていきます。

3

CSRレポート2007
第三者意見より

ご意見を踏まえて
の取り組み

本業を生かした環境・福祉・教育での社会貢献活動を
発掘されることを期待しています。

例えば福祉面の取り組みとして、当社ではこれまでに全国約1,800ヶ所に老人福祉施設を建設していますが、当社ならではの社会貢献活動をしようと考え、2007年5月より当社建設の老人福祉施設への訪問ボランティアを開始しました。(その他の取り組みについてはWebへ)



施設でのお誕生会で入居者と交流

2007年度
7回実施
従業員延べ
23名参加

第三者意見を受けて

大和ハウス工業(株)
代表取締役副社長 CSR担当

石橋 民生

今回のCSRレポートでは、冊子とホームページのそれぞれの特性を活かして「読みやすさ」と「説明責任の完遂」を目指しつつ、幅広いステークホルダーに対応した開示に努めました。

昨年に引き続き、高橋様には改善のために多くのご意見を頂戴しました。深く御礼申し上げます。「CSR自己評価指標」については、今年度45項目中16項目について期首に定めた目標を達成することができましたが、より達成率を高めていくためには、従業員間での情報共有も重要です。今後は、イントラネットで課題の解決方法について情報を共有するなど、より実効性の高い「CSR自己評価指標」の推進に取り組んでいくとともに、指標項目については、社会的課題との関連も含め、見直しを進めていきたいと考えています。

また、各ステークホルダーの意識や行動の変革を促すという視点から環境活動へのご意見もいただきました。ご指摘の通り、環境への取り組みは企業が自身の責任を果たすだけでなく、取り組み

の輪を広げていく必要があります。このたび策定した「エンドレスグリーンプログラム2010」では、エコ・ワークショップの充実、グリーン購入の推進、サプライチェーンへの環境マネジメントの拡大など、環境パフォーマンス以外についても計画と目標を策定し取り組みを推進していきます。また、生態系保全への取り組みに関しても、「レイクタウン美環(みわ)の杜(越谷市)」に代表されるような、自然環境と調和した街づくりに引き続き注力していく考えです。

また、事業部門をまたがるノウハウの共有など組織横断的な情報について、来年度のCSRレポートでは積極的に開示を進めさせていただくとともに、寄付先等とのコミュニケーションについても今年度以上に活発に行い、ステークホルダーとの連携を心がけることで、「共創共生」を実現していきたいと考えます。

今後も、なお一層CSR活動を充実させることにより、社会から必要とされる企業を目指しますので何卒ご理解、ご支援の程お願いいたします。



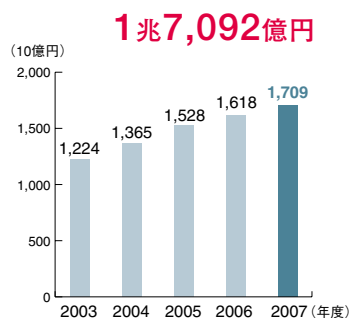
業績ハイライト 2008年3月31日現在

■ 連結財務ハイライト

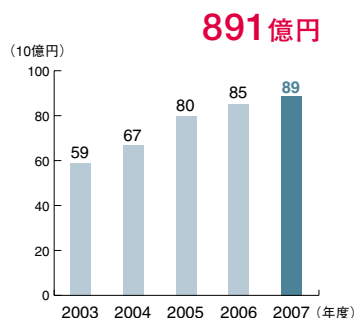
大和ハウス工業株式会社及び連結子会社

				増減
(年度)	2007	2006	2005	2007/2006
売上高	1,709,254	1,618,450	1,528,983	5.6%
営業利益	89,120	85,678	80,072	4.0%
経常利益	61,290	89,356	103,073	△31.4%
当期純利益	13,079	46,393	45,184	△71.8%
総資産	1,791,052	1,630,022	1,475,197	9.9%
純資産 (百万円)	649,440	661,145	576,534	△1.8%
1株当たり当期純利益	22.46	81.15	81.88	△72.3%
1株当たり純資産	1,092.04	1,122.88	1,053.37	△2.7%
1株当たり配当金 (円)	24.00	20.00	20.00	20%
配当性向	106.8	24.6	24.4	82.2ポイント
ROE (自己資本当期純利益率)	2.0	7.5	8.2	△5.5ポイント
自己資本比率 (%)	35.3	40.4	39.1	△5.1ポイント

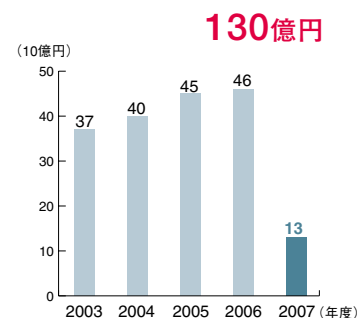
■ 売上高



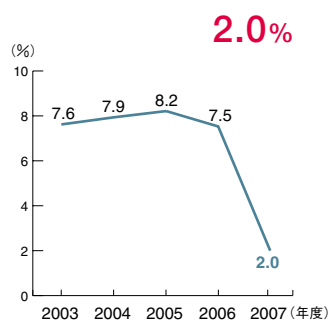
■ 営業利益



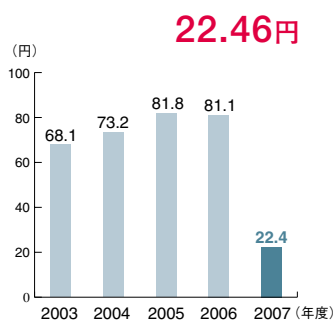
■ 当期純利益 (純損失)



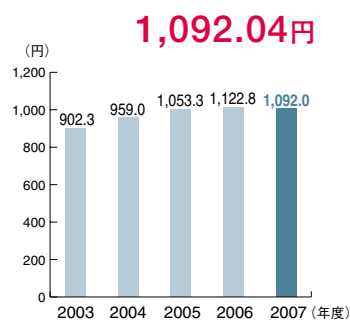
■ ROE



■ 1株当たり当期純利益 (純損失)



■ 1株当たり純資産

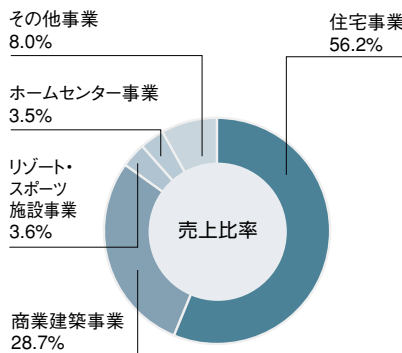


・財務情報

http://www.daiwahouse.co.jp/company/kessan/s_index.html

CSRのあゆみ

■ セグメント別売上比率



中期経営計画

私たち大和ハウスグループは、進化を続ける新しい複合事業体として、「利益体質の強化」と「将来に向けた収益源の育成」をメインテーマとした2008～2010年度の大和ハウスグループ『第2次中期経営計画－Challenge 2010－』を策定しました。



- 利益体質の強化
- 将来に向けた収益源の育成

経営目標

- 売上高 **1兆8,500億円**
- 営業利益 **1,150億円** (利益率6.2%)
- ROE **9.0%**

基本方針

- グループ連携によるさらなる成長の実現
- 将来に向けた新たな収益源の育成
- ストック・超高齢化社会に向けた研究開発と地球温暖化防止への取り組み
- 経営基盤の強化

大和ハウスグループの主な動き

- 総合技術研究所に環境技術を結集した「石橋信夫記念館」が完成 (07/04)
- 環境省「自主参加型国内排出量取引制度」に、栃木二宮、三重の2工場が参加 (07/05)
- 「大和ハウスグループ CSRレポート2007」発行 (07/08)
- 当社開発のエネルギーシミュレーションソフト「ecoナビゲーター」を活用した環境配慮住宅の提案が、第9回グリーン購入大賞において『優秀賞』を受賞 (07/09)
- イーキュービックと業務提携を締結、総合エネルギーサービス事業を展開 (07/09)
- 「環境対応型店舗 リ・ストア&リ・ビルドシステム」と「木粉リサイクルデッキ」が、平成19年度「資源循環技術・システム表彰」で『奨励賞』を受賞 (07/10)
- 環境省「チームマイナス6%」が展開する『1人、1日、1kg CO₂削減』応援キャンペーンに協賛 (07/10)
- 「社会に支持される会社を目指して」をテーマにステークホルダーミーティングを開催 (07/10)
- 分譲地「越谷レイクタウン」が「越谷市環境事業者賞」を受賞 (07/11)
- 当社の「居住段階におけるCO₂排出量の削減～省エネルギー住宅の開発・普及～」の取り組みが、「平成19年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞 (07/12)
- 賃貸マンション「ロイヤルパークス桃坂」が「第1回大阪サステナブル建築賞」を受賞 (08/02)
- 「CSRレポート2007」が『第11回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 持続可能性報告優秀賞』受賞 (08/02)
- 「第3回こどもエコ・ワークショップ」を開催 (08/03)
- 環境コミュニケーションサイト「未来惑星(ミライボシ)」を公開 (08/04)
- 森林資源の持続的な発展のため、カタログ、名刺、社封筒を「森林育成紙TM」に切り替え (08/04)
- 環境省「自主参加型国内排出量取引制度」に、九州、奈良の2工場が参加 (08/05)
- 環境省「街区まるごとCO₂20%削減事業」に「越谷レイクタウン」の戸建住宅街区が認定 (08/05)
- 全国の事業所で「ライトダウンキャンペーン」を実施 (08/06)
- 大和ハウスグループ中期環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム 2010」を策定 (08/07)

社外の主な動き

- 安倍首相が『美しい星へのいざない～CoolEarth50』を発表 (07/05)
- 21世紀環境立国戦略を閣議決定 (07/06)
- 「REACH規制」施行 (07/06)
- 主要国首脳会議(ハイリゲンダム)で「2050年までに温室効果ガス半減を検討する」旨の首脳宣言を採択 (07/06)
- 「改正フロン回収・破壊法」施行 (07/10)
- 「環境配慮契約法」施行 (07/11)
- 「第三次生物多様性国家戦略」閣議決定 (07/11)
- 福田首相がダボス会議で「クールアース推進構想」を提案 (08/01)
- 「改正京都議定書目標達成計画」閣議決定 (08/03)
- 「改正地球温暖化対策推進法」閣議決定 (08/03)
- 「第二次循環型社会形成推進基本計画」閣議決定 (08/03)
- 「改正省エネルギー法」成立 (08/05)
- G8環境大臣会合(神戸) (08/05)
- 「福田ビジョン」発表 (08/06)
- 北海道洞爺湖サミット (08/07)

2007年度

2008年度



・大和ハウスグループ中期経営計画
<http://www.daiwahouse.co.jp/company/challenge/>

トップコミットメント

- 会長から皆さまへ P.3~
- 社長から皆さまへ P.9~

私たちが大切と考えていること

- お客様との共創共生 人と環境にやさしい住まい P.11~
- 自然環境との共創共生 自然と調和した街 P.15~
- お客様との共創共生 個客思考の商品 P.17~
- お取引先との共創共生 信頼される施工品質 P.19~
- 次世代との共創共生 未来の豊かな環境・社会 P.23~
- 従業員との共創共生 家族・自分に誇りを持てる会社 P.27~

CSR経営の基盤

- 理念体系 P.7~
- コーポレート・ガバナンス P.31~
- CSR自己評価指標 (CSRマネジメント) 詳細版 P.33~
- コンプライアンス・リスクマネジメント P.31~
- サプライチェーン・マネジメント P.21~

共に創る 一事業を通じたCSR

- 大和ハウスが考える「ア・ス・フ・カ・ケ・ツ」とは
ア:安全・安心 ス:スピード・ストック フ:福祉 カ:環境 ケ:健康 ツ:通信

Housing

■ 住まいの安全と長寿命化に向けて (戸建住宅・賃貸住宅)

- 技術開発 [安全・長寿命]
地震対策システム「DAEQT (ディークト)」／鋼管杭「D-TEC PILE (ディーテックパイプ)」／非常時電源切り替えシステム／外壁塗装「XE (ジー) コート」／外張り断熱通気外壁／給水・給湯ヘッダー工法／排水ヘッダー工法
- 設計品質と施工品質
住宅性能表示制度の活用／自主検査写真確認システムの運用／施工・生産・開発改善連絡会の実施／賃貸住宅の品質基準「D-Room クオリティ」
- 長期保証とアフターサービス P.14~
長期保証システム「保証&点検プログラム」／「お客さまセンター」による相談受付／リフォーム体制 (耐震リフォームのフローなど)／D-Room Plus

■ 住まいの安全と長寿命化に向けて (マンション)

- 設計品質と施工品質
独自の設計基準による品質確保／設計住宅性能表示制度の活用／建設住宅性能表示制度の活用
- 長期保証とアフターサービス
40年の長期修繕計画／24時間「マンションサポートセンター」と監視システム「ホームサット24」／資産価値サポートシステム「D's Bridge (ディースブリッジ)」

■ 防犯に配慮した住まいと街づくり

- 防犯配慮の住まいづくり
防犯性能の標準化／防犯環境設計に基づく外構提案
- 防犯配慮の街づくり
[事例] ローズベイガーデン瀬田一里山／[事例] レイクタウン美環 (みわ) の杜
- 防犯遠隔監視システムの開発

■ 少子高齢社会に向けた住まいづくり

- フレンドリーデザイン
- 少子高齢社会の多様なニーズへの対応
[事例] 高齢者専用賃貸住宅「スカイステーション」／[事例] 介護付有料老人ホーム「ロイヤルパークス南千住」／[事例] 子育てマンション「プレミスト和泉府中」／[事例] 近居・育孫プロジェクト／[事例] ハッピーハグモデル
- 少子高齢社会に向けた産官学連携 P.17~
ジェロントロジー寄附講座／大阪市立大との共同研究／高齢者いきいき居住アイデアコンテスト

■ 居住段階のCO₂排出削減へ向けて

- CO₂排出削減への考え方 P.11~
- 省エネ住宅の開発
省エネ住宅xevoの開発／次世代省エネ基準を上回る「外張り断熱通気外壁」の開発／オリジナル排熱システム「涼なび」の開発／遮熱スクリーンの開発／住宅・建築用リチウムイオン電池の開発
- 省エネ住宅の普及
エネルギーシミュレーションソフト「ecoナビゲーター」の活用／次世代省エネルギー基準対応住宅の普及／太陽光発電システムの普及／高効率給湯器 (エコキュート・エコジョーズ) の普及
- 環境に配慮した暮らし方の提案
住まいの体験学習館／各種情報誌を用いたコミュニケーション／環境コミュニケーションサイト「未来惑星 (ミライボン)」／「1人1日1kg CO₂削減」応援キャンペーンも協賛

■ 環境と共生した住まいと街づくり

- 環境共生への考え方
- 環境共生住宅認定の推進
- 緑を活かすデザイン
三分 (さんぶん) の緑陰／コミュニティ形成のきっかけづくり／[事例] ウェリスパーク新宮 杜の宮／[事例] グリーンアレイ茨城
- 風を活かすデザイン
[事例] レイクタウン美環 (みわ) の杜 P.15~
- 太陽を活かすデザイン
[事例] D'グラフォートレイクタウン
- 水を活かすデザイン
[事例] 次世代型エコタウン「EDDI+S TOWN (エディスタウン)」

■ 健康に配慮した住まいづくり

- 空気環境への配慮
シックハウス対策／ホルムアルデヒド放散建材の受入れ検査／新築住宅のホルムアルデヒド濃度の確認／24時間換気システムの標準化／空気清浄機「換気浄化ef (イーエフ:Excellent Fresh)」の開発
- 健康管理支援への取り組み
インテリジェントイレイ／寄附講座「住居医学」講座の提供
- 睡眠環境の向上に向けて
快眠のための照明技術／村角千亜希氏とのコラボレーション「あかりの魔法プロジェクト」

■ 通信インフラの構築に向けて

- ホームサーバーの研究と開発
- ホームネットワークを活用した生活サービスの研究と開発

Business

■ 建物の安全と長寿命化に向けて (商業施設・業務施設)

- 技術開発 [安全・長寿命]
座屈しないブレース「D-TEC BRACE (ディーテックブレース)」／コンクリート・鉄骨混合構造「DANBEL (ダンベル) 構法」
- 設計品質と施工品質 P.19~
構造設計のダブルチェック体制／システム建築 (工場生産) による品質の安定／施工段階での品質管理体制／改善標準化委員会による継続的な改善と標準化
- アフターサービス体制
GR (グッドリレーション) システム／24時間受付コールセンターの設置

■ 食の安全・安心に向けて

- 食品衛生技術顧問団との連携サポート
- HACCP (ハサップ) 高度化認定支援
- 食の安全に向けたアフターサービス体制

■ 高齢者医療・介護への提案

- シルバーエイジ研究所
[事例] 住宅型有料老人ホーム「杉の子」
- ロボットスーツ事業への参画

■ 環境対応技術の開発

- リ・ストア&リ・ビルドシステムの開発と普及
- 折板屋根緑化システム「ecoヤネ」の開発

■ エネルギー事業の展開

- 風力発電事業
佐田岬風力発電事業 (愛媛県佐田岬半島)／小型風力発電機「風流鯨 (かぜながすくじら)」の普及
- ESCO事業
- エネルギードクターサービス

Life

■ 森林住宅

- 管理サービス
- 自然との共生
- 定住促進への取り組み

■ スポーツクラブ

共に生きる 一地球環境への取り組み

■ 環境活動ハイライト2008

■ 環境ビジョン

■ 環境マネジメント

環境マネジメント体系／環境マネジメントシステムの拡大／環境教育／ISO14001認証取得状況／環境影響評価／緊急時の対応／環境監査

■ 環境負荷マテリアルフローと環境会計

■ 環境行動計画2005の実績と自己評価 P.35~

この報告書の内容、並びにCSRへの取り組み状況は、インターネットでもご覧いただけます。

<http://www.daiwahouse.co.jp/csr/>

■地球温暖化防止への取り組み

- 考え方、実績・自己評価
- 自社施設への自然エネルギーの導入
【事例】りんくうプレジャータウン「シークル」
- 居住段階におけるCO₂削減
- 事務部門の取り組み
クールビズ、ウォームビズの継続／「エネルギー・ドクター・サービス（エネルギーの見える化）」の試行（川越支店）
- 車両部門の取り組み
ハイブリッド車、低公害車の導入促進
- 生産部門の取り組み
コンプレッサーを間欠運転に変更／事務所OA機器における省エネの徹底／環境省自主参加型国内排出量取引制度に参加
- 輸送部門の取り組み
出荷エリアの見直し／エコドライブ活動と低燃費車両の導入／共同輸送とモーダルシフト
- グループ会社の取り組み
ホームセンターの取り組み／リゾートホテルの取り組み

■廃棄物削減への取り組み

- 考え方、実績・自己評価
- リサイクル～グループ内での資源循環システムの構築～
建設副産物工場デポ化／エコマーク認定「木粉リサイクルデッキ」の開発
- リユース～再生・再建築可能な「環境対応型店舗」を開発～
- リデュース～瓦のプレカット～
- 生産部門の取り組み
床パネル用合板における端材の有効活用
- 住宅系施工部門の取り組み
- 建築系施工部門の取り組み
システム建築の推進

■ P.19～

■有害化学物質削減への取り組み

- 考え方、実績・自己評価
PRTR集計システムフロー／PRTR対象物質のマテリアルバランス
- 生産部門の取り組み
キシレン削減への取り組み／鉛・クロムフリーさび止めペイントへの切り替え

■水資源保護への取り組み

- 事務部門の取り組み
雨水利用システムの導入（越谷支店）
- 生産部門の取り組み
電着ライン使用水の循環利用／食堂施設での取り組み

■グリーン購入・調達への取り組み

- グリーン購入
グリーン購入基準の策定／森林育成紙TMの導入
- グリーン調達
グリーン調達基準の運用

■環境リスク低減への取り組み

- 環境法令を遵守する仕組み
- 地区廃棄物管理体制
- アスベスト問題への対応
- 事業用地の土壤汚染チェック体制
- 自社所有地の履歴調査によるリスク評価
- 大気汚染防止への取り組み
- 水質汚濁防止への取り組み

■生物多様性の保全

- 豊かな生態系に配慮した街づくり（戸建住宅）
- 生態系に配慮した宅地開発（森林住宅）
- 自然環境の維持保全（リゾートホテル）

■ P.15～

■環境コミュニケーション

- 次代を担う子どもたちへ
こどもエコ・ワークショップの実施／小学校で環境教育を実施（大和エネルギー）
- 情報発信・対話機会の充実
環境広告／環境展示会への出席

■ P.23～

■エンドレス グリーン プログラム 2010

■ P.37～

- 基本方針
グループ連携によるさらなる取り組みの拡大／地球温暖化防止対策の強化「CO₂ダブルスコアの達成」／環境・エネルギー分野の先行技術開発の推進／生態系保全への取り組み推進
- グループ全体目標一覧

共に生きる 一企業市民としての取り組み

■社会性報告ハイライト2008

■お客様と共に

大和ハウスグループCS理念

●CS（顧客満足）の向上

CS統括部門の創設／CS委員会による改善活動の推進

●施工品質とアフターサービス

施工品質の確保

■お取引先と共に

■ P.19～

お取引先とのよりよいパートナーシップを築くための方針

●資材調達先との関係

資材調達先の会～トリリオン会の活動／BC（事業継続）に関してセミナーを開催／取引先選定基準について

●施工協力先との関係

施工協力先の会～協力会連合会の活動／協力会社安否確認システムの導入／取引先アンケートの実施

●設備機器調達先との関係

設備機器調達先の会～設和会の活動

●建設現場の労働安全

パトロールの実施／安全衛生協議会の実施／安全教育／安全大会の開催／作業現場での労働災害の防止

●適正な支払い

公正な取引契約の実施（下請法への対応）

■株主・投資家と共に

株主の皆様への利益還元方針

●公正な情報開示

タイムリーなIR情報の開示

■従業員と共に

■ P.27～

人財・雇用・職場環境に関する方針

●雇用と処遇

雇用の状況／高齢者再雇用の推進／障がい者雇用の推進／女性の登用の拡大

●人権尊重

人権啓発活動方針／人権教育・啓発への取り組み／人権意識調査の実施／人権標語コンクールの実施とポスターの掲示／社内イントラネットに研修、情報の提供

●健康への配慮

メンタルヘルスケアの対応／定期健康診断の実施

●人財育成

自主選択・自立型の人財育成

●働きやすい職場

労働環境の整備／働きやすい職場環境づくり／次世代育成の推進／各種人事制度の利用状況

■地域社会と共に

■ P.42～

社会貢献活動理念・社会貢献活動スローガン・社会貢献活動の「社長表彰制度」

●社会貢献活動の総括

●社会貢献活動（環境）

「なら燈花絵へのボランティア」に参加／「六甲山の清掃活動」を実施

●社会貢献活動（福祉）

当社建設の「老人福祉施設への訪問ボランティア」を実施／従業員向け「福祉ボランティア講座」を開催

●社会貢献活動（教育）

「職場体験学習」を実施／「出張授業」を実施

●社会貢献活動（その他）

「絵本を届ける運動」に参加／「江の島花火大会」で施設を開放／東京理科大学へ寄付

●義援金・募金活動

義援金システムの運用・管理

●今後に向けて

社会貢献活動に関する数値目標／今後に向けて／「経団連1%クラブ」へ入会

サイトレポート2008

■大和ハウス工業・生産工場

東北工場／新潟工場／栃木二宮工場／亀ヶ崎工場／中部工場／三重工場／奈良工場／堺工場／岡山工場／九州工場／鹿児島工場

■グループ会社の取り組み

大和リゾート（株）／大和リース（株）／ダイワラクダ工業（株）／ロイヤルホームセンター（株）／大和物流（株）

その他コンテンツ

■ステークホルダーとの対話

■ P.39～

■第三者意見

■ P.41～

第三者意見／第三者意見を受けて／昨年度のご意見を踏まえた取り組み

■ガイドライン対照表

GRIガイドライン対照表／環境省ガイドライン対照表

■業績ハイライト・中期経営計画

■ P.43～

■CSRのあゆみ

■ P.44～

大和ハウス工業株式会社

森林育成紙TM使用

私たち大和ハウスグループは、「共創共生」の基本姿勢のもと、健全な森林育成のために、当冊子には森林育成紙TMを使用しています。

The Daiwa House Group logo, the Endless Heart markは、大和ハウス工業株式会社の日本およびその他の国における登録商標または商標です。



この冊子は、環境に配慮したアロマフリー型大豆油インクを使用しています。



グリーン購入に取り組んでいます